# 石見銀山ことはじめ

## わたしたちの石見銀山

# 石見銀山ことはじめ

## わたしたちの石見銀山

# 石見銀山を学ぶあなたへ

この冊子を手にとり、読もう、いや調べようとしているあなたは、大田市の小学校6年生（複式の学校では5年生も）か中学生です。今から、少し回りくどいかもしれないけれど、あなたが石見銀山を学ぶ意義について述べます。

あなたが生まれたときのことを覚えていますか。生まれたてのあなたにとっての世界（社会）は、あなたを取り囲む家族とその家庭でした。成長し、自分で動けるようになり、あなたの見たり聞いたりする世界は少しずつ広がっていきます。保育所や幼稚園に入ると、家（家庭）から離れた社会を初めて経験しています。一緒に遊んだりケンカしたりいろいろなことがあったと思います。そうした家族とはちがう人（むずかしい言葉で「他者」）との出会いは、きっとあなたの世界をずいぶんと広げたと思います。

そして、小学校入学。同い年の友だちもいれば、もっと上のお姉さんお兄さんもいる学校という世界です。小学校に、歩いて通っている人もいればバスで通っている人もいるでしょう。生まれたてのあなたと比べれば、格段にあなたの世界は広がりました。学校では、勉強をします。この勉強もあなたの世界を広げるものです。

１・2年生の生活科では「学校たんけん」「まちたんけん」と言って、学校やその周り、住んでいるところについて調べたと思います。３・4年生の社会科では、この大田市や島根県について見学したり、本で調べたりしました。あなたの世界は、住んでいる町から大田市や島根県にまで広がっているのです。

5年生では日本のいろいろなことを勉強します。あなたの世界が日本まで広がります。そして、6年生では、歴史や世界の国について学びます。3年生で身近な昔の暮らしについて勉強しますが、6年生では日本という社会の歴史を学びます。これまで、横に広がっていたあなたの世界は、ここで縦にも広がるのです。

さらに、中学校になると地理、歴史、公民と分野が分かれ、少し専門的に社会科学習をします。社会科に限らず他の教科もあなたの世界を広げ深めてくれます。こんなふうにあなたの成長は身長体重が大きくなるだけでなく、あなたの見聞きする世界が広がっていくことなのです。

そして今、石見銀山学習で、この読本を開いています。石見銀山は、今から500年以上前に発見されました。今では姿が変り、多くが遺跡になっています。それが、2007（平成19）年、「石見銀山遺跡とその文化的景観」として世界遺産に登録されました。石見銀山を学ぶことは、「世界遺産」としての価値を世界規模で知ることや、この遺跡を後世にも残し伝えようとする人々の思いや願いに触れることです。また、ずっと昔からのこと（歴史）を知ることや、働いていた人を始めとする当時の人々の思いを想像することでもあります。そうした様々な学びは、大田市で育っているあなたにとって、大田市民としての心の豊かさを身につけることなのです。

しかし、この読本に石見銀山の全てが書いてあるわけではありません。ここをスタートに、学びを広げたり深めたりしてほしいです。あなたの今調べていることだけのためにページをめくってもいいのです。石見銀山学習が、あなたの世界を広げたり、深めたりするものであってほしいです。

また、大田市には、石見銀山の他にも三瓶山や琴ヶ浜など日本や世界に誇れるものがたくさんあります。あなたの住んでいる地域にもあります。石見銀山に限らず、ふるさと学習でこの大田のことをしっかり学んでください。

さらに、石見銀山遺跡の今後を考えることは、大田で育っているあなたにとって、将来の大田市のことを考えることでもあります。大田市は、ユネスコの精神に則り、人権尊重のまちづくりを進めています。あなたには大田市の抱えている課題を含めて一緒に考え、解決の方向へのはじめの一歩としてほしいです。そうすることで、この石見銀山学習は過去や現在だけでなく、未来にもつながってきます。

21世紀は人権の世紀と言われます。石見銀山学習を経験したあなたが成長し、ユネスコのめざす平和や人権を大切にするという考え方を共有して、未来の大田市を担うことを願っています。

編 集 員

# もくじ

## 石見銀山ことはじめ　わたしたちの石見銀山


### ❶世界遺産と石見銀山

(1)世界遺産とは？ …… 6
○世界遺産の種類　○世界遺産条約が生まれたきっかけ

(2)日本の世界遺産 …… 8

(3)世界遺産に登録された石見銀山 …… 10
○石見銀山が世界遺産に登録されたわけ

(4)石見銀山遺跡とその文化的景観 …… 12
○石見銀山の主な遺跡・施設

### ❷鉱山の特徴と製錬技術

(1)鉱山の形成と特徴 …… 14
○鉱床の形成　○採掘の方法

(2)銀の製錬方法 …… 16
○灰吹法の導入による変革

### ❸石見銀山の銀鉱石の採掘

(1)石見銀山の発見 …… 18

(2)石見銀山での鉱石の採掘方法 …… 20
○【掘る】【運び出す】　○【地下水をくみ出す】【空気を送る】

(3)銀を運ぶ道 …… 22
○鞆ケ浦道（大内氏の支配した時代）○温泉津･沖泊道（毛利氏の支配した時代）
○銀山街道（尾道ルート･江戸時代）

(4)石見銀山の休山 …… 24
○大正・昭和時代の石見銀山

### ❹石見銀山と国際貿易

(1)アジアとヨーロッパがつながる時代 …… 26
○大航海時代の幕開け　○ポルトガルのアジア進出　○大航海時代以降の人と物の動き

(2)銀の世界的流通と日本銀 …… 30
○スペインの南アメリカ進出

(3)貿易と日本社会の変化 …… 32
①鉄砲の伝来が統一政権の誕生を早めた　②キリスト教の伝来　③織物産業の発展

### ❺石見銀山をめぐる争奪戦

(1)戦国時代の日本と石見銀山 …… 34
○石見銀山争奪戦　○戦国大名が石見銀山を支配したがった理由

(2)地元に残る石見銀山争奪戦を伝えるもの …… 36
○長福寺（波根町）の福田衣　○円光寺（久手町）の多胡辰敬肖像画　○地元に残る石見銀山争奪戦の跡は？

## ❻江戸幕府の石見銀山支配


⑴江戸幕府は石見銀山をどのように治めたのか …… 40
○徳川家康による銀山の直轄化　○石見銀山を治める役人　○石見銀山で活躍した奉行･代官たち
⑵石見銀山を支える周辺の村々 …… 42
○石見銀山とたたら製鉄　○森林資源を支える御囲村
○銀の輸送を支える宿駅・助郷村　○人々の生活を支える諸物資の供給
⑶江戸幕府による石見銀山支配の終わり …… 44
○長州戦争での戦い


## ❼石見銀山の町並み


⑴石見銀山の町並みと歴史 …… 46
○鉱山町 銀山
⑵大森代官所と陣屋町大森 …… 48
○陣屋町 大森　○大森代官所の役割
⑶港町 温泉津 …… 50
○温泉津の問屋　○北前船の活躍した時代


## ❽これからの石見銀山とまちづくり


⑴現代につながる石見銀山の暮らし …… 52
○石見銀山遺跡のあゆみ　○周辺地域の文化的景観
⑵危機にさらされる世界遺産 …… 54
○世界遺産のもたらすもの　○世界遺産になったら、ずっと世界遺産のままですか？
⑶自然とともに生きる …… 56
○銀山地区の植生の歴史
⑷石見銀山遺跡の景観を守る …… 58
○石見銀山遺跡を守るために、どんな活動が行われているのでしょう
⑸石見銀山を伝える …… 60
⑹まちづくり …… 62
○官民協働の取組　○人権のまちづくり

●参考となる図書 …… 64
●用語解説（本文中に「※」のついているもの …… 65
●石見銀山での主なできごと …… 70

# ❶世界遺産と石見銀山

## (1) 世界遺産とは？

世界遺産とは、1972年のユネスコ（国連教育科学文化機関）※の総会で採択された「世界遺産条約」に基づいて登録される文化や自然の貴重な遺産のことです。国や民族、宗教などのちがいをこえて、私たちが過去から受け継ぎ、未来へと伝えていかなければならない人類共通のたからものと言えます。

ユネスコが活動の方針としているユネスコ憲章※の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。」と書いてあります。お互いの国や民族の生活や風習をよく理解していないことが戦争の原因の一つとして考えられています。ですから、世界遺産を守ることによって、お互いの暮らしや文化を知り尊重することは、人権尊重や世界平和の実現をめざすユネスコの精神に基づいたものということができるでしょう。

### ○世界遺産の種類

世界遺産には文化遺産、自然遺産、複合遺産の３つの種類があります。

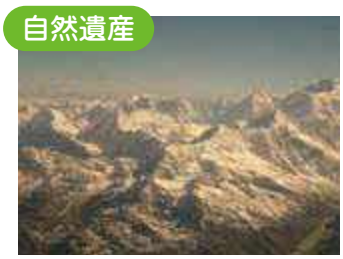
文化遺産とは、いつまでも変わらない貴重な価値がある遺跡や建物、町並み、文化的な景観などです。自然遺産とは、特徴のある地形や地質、生態系、絶滅の恐れのある動植物の生息地、美しい自然の風景などの中で特に価値の高いとされたものです。そして、複合遺産とは、その両方の価値を同時にふくんでいるもののことです。

現在、世界中には 1199 件の世界遺産があります。自然遺産は 227 件、文化遺産は 933 件、複合遺産は 39 件です。（2023 年 10 月現在）

文化遺産

メンフィスとその墓地遺跡
（エジプト･アラブ共和国）

自然遺産



サガルマータ国立公園
エベレスト（ネパール）

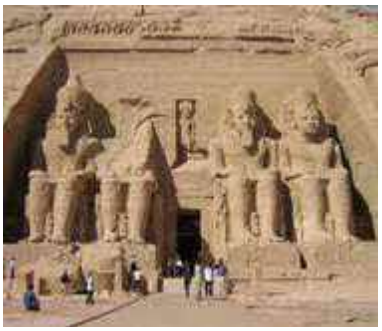
複合遺産

マチュ・ピチュの
歴史保護区（ペルー）

**知ってる？ 無形文化遺産**

ユネスコは、形あるものが登録される世界遺産の他に、「無形文化遺産」※も定めています。無形文化遺産とは、人間がもつ知恵や慣習、伝統などが対象になります。日本には 2023 年 12 月現在、22 件が登録されています。その中で、私たちのふるさと島根県では、「佐陀神能」「石州半紙（和紙）」の2件が登録されています。

## ○世界遺産条約が生まれたきっかけ


アブ・シンベルからフィラエまでのヌビア遺跡群

人類共通のたからものを守ることを目的として生まれた世界遺産条約。その世界遺産条約はどうして生まれたのでしょう。それは、アフリカでのある出来事がきっかけでした。

1950年代にエジプトのナイル川にアスワン・ハイ・ダムという大きなダムを造る計画が立てられました。ダムが完成すると、アブ・シンベル神殿をはじめとするエジプトの多くの貴重な遺跡がダムの底に沈んでしまうことになります。そこで、ユネスコは国際的な救済キャンペーンを展開しました。50か国以上の協力を得て神殿を解体し、水没しない場所に移して保存することに成功しました。

この出来事をきっかけにして、世界各地の貴重な遺産を保護する国際的なきまりの必要性が認識され、世界遺産条約（正式には『世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約』）の制定の動きへとつながっていったのです。2023年10月現在、195か国がこの条約に加盟しています。日本は1992年に加わりました。

### 危機遺産

世界遺産の中には、「危機遺産」※と呼ばれる遺産もあります。遺産のもつ普遍的な価値が失われるかもしれない重大な危機にさらされている場合に、危機遺産リストに登録されます。重大な危機としては、地震などの自然災害の他に、人間が引き起こす紛争、酸性雨による被害、貴重な動植物の売買による被害などがあります。また、世界遺産に登録されたがゆえに有名になり、観光客が増え、その結果、遺産が傷んだり壊されたりする危険もあります。このような世界遺産を国際的な支援によって保護していくことも重要です。

### 負の世界遺産

世界遺産に登録されているのは、すばらしい建物や美しい自然ばかりではありません。例えば日本にある「原爆ドーム」は、核兵器の悲惨さを伝える遺産であり、ポーランドの「アウシュビッツ強制収容所」は、ナチス・ドイツがユダヤ人をはじめとする多くの人の命を奪ったことを記憶に留めておくための遺産です。

このように、同じ過ちを繰り返さないために、歴史上の負の側面を伝える目的をもつ世界遺産を日本では「負の世界遺産」※と呼ぶこともあります。

## (2) 日本の世界遺産　自然遺産 ①〜④　文化遺産 ⑤〜㉓

日本には、私たちの島根県にある石見銀山をはじめ、25 件（2021 年現在）の世界遺産があります。そのうち自然遺産は 5 件、文化遺産は 20 件です。日本にある世界遺産の場所を確かめてみましょう。

### ①知床（2005年）

北半球で流氷が漂流する最も緯度の低い場所です。シマフクロウ、オオワシなどの生息地です。

### ②白神山地（1993年）

（提供：白神山地ビジターセンター）

青森県、秋田県にまたがる広大なブナの原生林です。特別天然記念物のニホンカモシカなど多くの野生生物が生息しています。

### ③小笠原諸島（2011年）

東京都にある30以上の島々からなる遺産です。絶滅危惧種のオガサワラコウモリなど多くの希少な生物が生息しています。

### ④屋久島（1993年）

樹齢 1000年をこす屋久杉の原生林が有名です。島の固有種で体の小さいヤクシカ等が生息しています。

### ⑤平泉―仏国土（浄土）を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群（2011年）



中尊寺、金鶏山を含む5つの資産で構成された遺産です。仏教における浄土を表現したものです。



たくさんあるんだね!!

### ⑥日光の社寺（1999年）



（提供：日光山輪王寺）

江戸時代に建てられた東照宮が有名です。絢爛な社殿だけでなく、当時の思想を表現した独創的な彫刻も魅力的です。

### ⑦富岡製糸場と絹産業遺産群（2014年）



日本の養蚕技術や絹産業を革新して高品質の絹織物を大量生産し、日本の絹織物を世界にしらしめました。

### ⑧富士山―信仰の対象と芸術の源泉（2013年）



季節や天候、見る場所により様々な美しさを見せ、古くから多くの人を魅了し、信仰や芸術の対象とされています。

### ⑨白川郷・五箇山の合掌造り集落（1995年）



合掌造りと呼ばれる独特の建物の造りは、豪雪地帯の厳しい自然環境と伝統的な生活文化によって生まれました。

### ⑩古都京都の文化財（1994年）

京都に点在する文化財の中で、日本の文化や造園、建築技術を伝えるものです。周囲の景観や四季ごとの美しさを取込むなど、伝統的な思想が息づいています。

### ⑪古都奈良の文化財（1998年）

中国や朝鮮半島との人の交流によって仏教文化が花開き、その寺院が多くの人々の努力によって、1000年以上のこされています。

### ⑫法隆寺地域の仏教建造物（1993年）

1400年前の建築技術で造られている寺です。木造建築では世界最古のものといわれ、日本の「木の文化」をよく表しています。

### ⑬紀伊山地の霊場と参詣道（2004年）

高野山などの3つの霊場と京都と奈良をつなぐ参詣道からなります。仏教と神道が融合する霊場は日本独特のものです。

（提供：熊野本宮観光協会）

### ⑭姫路城（1993年）

17世紀に完成した城で、白い城壁が美しく「白鷺城」とも呼ばれています。運よく危機をまぬがれ、現在まで守られてきたことで美しい姿をとどめています。

### ⑮石見銀山遺跡とその文化的景観（2007年）

銀の採掘・精錬から運搬・積み出しまでを行った鉱山跡と町並み、港、街道、そしてそれらを守る山城からなっています。アジアで初の鉱山遺跡として登録されました。

### ⑯原爆ドーム（1996年）

第二次世界大戦末に歴史上初めて使用された核兵器によって被爆した建物です。核兵器や戦争の悲惨さを伝える遺産です。

（提供：広島市）

### ⑰厳島神社（1996年）

平安時代、平清盛によって現在の海上にたつ社殿が整えられました。当時の建築様式をよくのこしています。

### ⑱明治日本の産業革命遺産（2015年）
—製鉄・製鋼、造船、石炭産業—

製鉄や造船など、日本を産業国に成長させた工場などの資産が、岩手県から鹿児島県に点在します。現在も稼動しているものもあります。

### ⑲琉球王国のグスク及び関連遺産群（2000年）

12世紀から19世紀まで栄えた琉球王国の史跡群です。沖縄独特の壮麗な城や石造りの建造物が見事です。

### ⑳ル・コルビュジエの建築作品（2016年）
—近代建築運動への顕著な貢献—

（提供：国立西洋美術館）

日本で唯一のル・コルビュジエの建築です。ル・コルビュジエが追求した「無限成長美術館」のアイデアを実現した3つの美術館の中で、最も完成度が高いとされています。

### ㉑「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群（2017年）

「神宿る島」を崇拝する伝統が古代東アジアの活発な対外交流の中で発展し、今日まで継承されてきた、宗像大社と古代祭祀を行った人々の古墳群からなる貴重な遺産群です。

### ㉒長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産（2018年）

キリスト教禁教による宣教師不在の中、神道や仏教などの日本の伝統的宗教や一般社会と関わりながら信仰を続けた潜伏キリシタンの伝統のあかしとなる遺産群です。

### ㉓百舌鳥・古市古墳群 —古代日本の墳墓群—（2019年）

（提供：堺市）

古墳時代の最盛期（4世紀後半から5世紀後半）にかけて大阪平野に造られた古墳群です。巨大な前方後円墳から小さな方墳まで、様々な古墳からなります。

### ㉔奄美大島、徳之島、沖縄県北部及び西表島（2021年）

### ㉕北海道・北東北の縄文遺跡群（2021年）

## (3) 世界遺産に登録された石見銀山

石見銀山遺跡は、2007（平成 19）年７月、「石見銀山遺跡とその文化的景観」という名称で世界遺産に登録されました。日本国内では 14 番目、鉱山遺跡としてはアジアで初めての登録となりました。

石見銀山遺跡の世界遺産登録は、特に地元の島根県や大田市では大きな喜びをもって迎えられました。昔から保存活動に取り組んできた地元の人々、世界遺産登録へ向けて準備を進めてきた日本政府や島根県、大田市の関係者の思いが届いた瞬間でした。

石見銀山世界遺産登録時の審査の様子（ニュージーランドにて）

### ○石見銀山が世界遺産に登録されたわけ

世界遺産に登録されるには、世界遺産にふさわしい価値をもっていなくてはなりません。ユネスコでは、次のような基準を設け、審査しています。この 10 の登録基準のうち、いずれか一つ以上の基準を満たしていなければなりません。

1. 人類の創造的才能を表現する傑作であるもの。
2. 建築、技術、記念碑、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。
3. 文化的伝統または文明の、唯一のまたは非常にまれな証拠を示しているもの。
4. 人類の歴史の上で、重要な建築や技術または景観の優れた例であるもの。
5. 人類の伝統的な集落や、土地や海の利用の様子を示す、すぐれた実例であること。
6. 歴史上の出来事や現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と直接あるいは明白な関連があること。
7. ひときわすぐれた自然美や、美的な重要性をもつ自然現象または地域を含むもの。
8. 生命の進化の記録や、長い年月にわたる地形の変化の様子、あるいは重要な地質学的、自然地理学的特徴を含む、地球の歴史を代表する実例であること。
9. 陸上、淡水、沿岸および海洋の生態系と動植物群集の進化と発達において、重要な生態学的、生物学的過程を代表する実例であるもの。
10. 生物多様性を、ありのままの本来の状態に保つためにもっとも重要で意義深い自然生息地を含んでいるもの。絶滅の恐れのある種の生息地などが含まれる。

石見銀山遺跡は、この登録基準のうち、2番目、3番目、5番目の３つの価値が認められました。その理由は次の通りです。

### ◆石見銀山の銀が世界の経済や文化の交流に大きな影響を与えた。（2）

16 世紀、石見銀山では当時の先進的な製錬法である灰吹法を取り入れることによって、良質な銀を大量に生産しました。その技術は、国内の多くの鉱山に伝わり、銀の生産を増やすことにも貢献しました。

こうして生産された日本銀は、日本国内や東アジアだけでなくヨーロッパの人々の関心をひき、アジアとヨーロッパをつなぐ経済や文化の交流に発展します。有名なフランシスコ・ザビエル神父の手紙に、「スペイン人は日本のことを「銀の島」と呼んでいる」とあることや、当時の地図に「Argenti fodinæ（銀鉱山）」と記されているなど、ヨーロッパの人々が日本の銀に深い関心をもっていたことがうかがえます。（→４･５章）

### ◆銀を生産していた時の坑道や工房の跡が遺跡としてよく残っている。（3）

石見銀山では、江戸時代を通じて、採掘から製錬までの作業がすべて人力・手作業で行われていました。このような作業を行う工房が銀山に多数集まることによって、良質な銀を大量に生産することができました。

明治時代になり、新しい技術が導入されましたが、その頃には、石見銀山では銀鉱石はほとんど底をつき、生産活動がなされなくなっていました。そのため、江戸時代までの採掘現場や工房跡が良好な状態で残されています。（→２･３･６章）

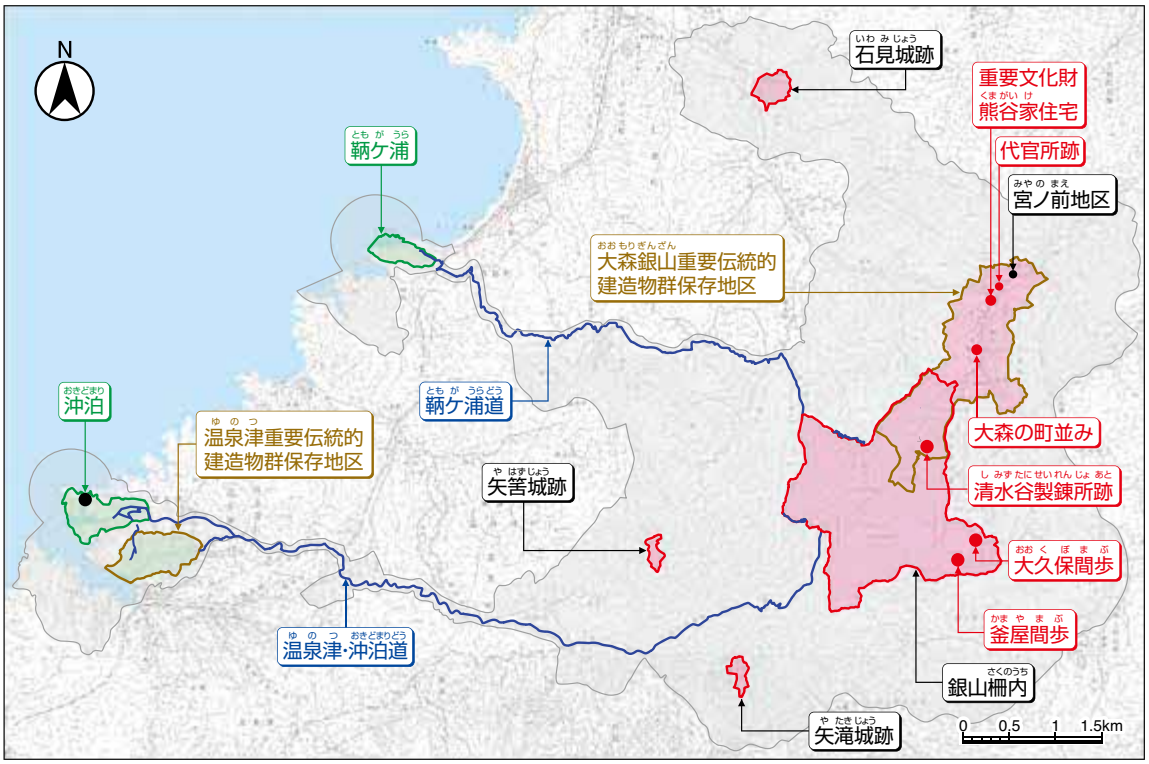
### ◆銀を運んだ街道や銀を積み出した港も残り、さらに鉱山町や港町には今でも人々が住み続けている。（5）

石見銀山遺跡には、鉱山跡を中心に、敵から銀山を守った城跡や、銀や生産・生活に必要な物資を運んだ２本の街道、鉱山町や港町が残っています。そしてその鉱山町や港町には今でも人々が住み、生活の場となっています。石見銀山は、鉱山運営の全体像が良く分かる遺産なのです。

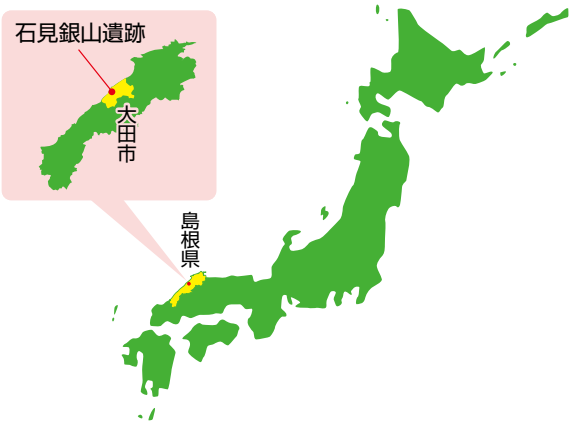
また、銀の製錬には非常に多くの木材燃料が必要とされますが、木を切る場所と植える場所を周囲の村々に交替で請け負わせるなどの工夫をし、山林が失われることを防いでいました。鉱山に関係する遺跡と豊かな自然環境が一体となり、人間が自然と共生する中で育んできた景観をみせる世界的にも貴重な遺跡です。（→７･８章）

## (4) 石見銀山遺跡とその文化的景観

石見銀山遺跡は、仙ノ山を中心とする銀鉱山跡や、武家屋敷や商家・町屋などが集まった鉱山町、銀の積み出しや物資の輸送のために使われた港や港町、そして、銀山と港を結ぶ街道からなっています。これらを合わせると500ha以上にも及ぶ広大な範囲です。石見銀山を訪れると、当時の採掘の様子や人々の生活の様子をうかがい知ることができます。




| 項　目 | | | |
|---|---|---|---|
| 銀鉱山跡と鉱山町 | 史跡 | 核心地域（コアゾーン） | 約529ha |
| 石見銀山街道 | 史跡 | 核心地域（コアゾーン） | |
| 港と港町 | 史跡 | 核心地域（コアゾーン） | |
| 重要伝統的建造物群保存地区 | | 核心地域（コアゾーン） | |
| 緩衝地帯（バッファゾーン） | | | 約3,134ha |



## ○石見銀山の主な遺跡・施設

**【大久保間歩】**
石見銀山最大級の間歩です。初代奉行の大久保長安の名から名付けられました。冬は冬眠にくるコウモリを守るため、見学できないようになっています。

**【大森代官所跡】**
江戸時代におかれた代官所跡で、現在は資料館となっています。長屋門は当時のものがそのまま使われています。

**【大森の町並み】**
石見銀山の玄関口として発達した大森の町並みです。地元の人々の努力により、当時の面影をそのまま残しています。

**【熊谷家住宅】**
熊谷家は大森の中で最も有力な商家として栄えました。炊飯活動など昔の暮らしを体験できます。

**【釜屋間歩】**
山師の安原伝兵衛が夢のお告げで発見したといわれる間歩です。周辺には岩を掘って階段や溝がつくられています。

**【清水谷製錬所跡】**
明治時代の最先端技術を導入した製錬所の跡です。当時の最先端技術を用いても期待された成果をあげられず、わずか1年半で操業は中止されました。

**【石見銀山街道】**
銀の搬出と物資の搬入のために利用された道です。写真は温泉津沖泊道の松山の道標付近。この他、銀山と仁摩を結ぶ鞆ケ浦道もあります。

**【沖泊】**
銀の輸送や物資の補給のため多くの船が出入りしていた港。船をつなぐ鼻ぐり岩が多く残っています。

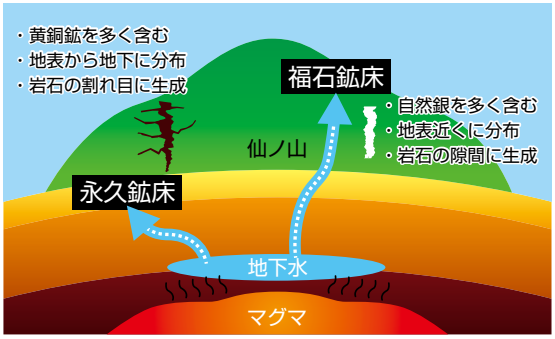
# ❷鉱山の特徴と製錬技術

## (1) 鉱山の形成と特徴

石見銀山の中心である仙ノ山は標高537m。150万年前の火山活動によってできた山です。マグマで熱せられた金・銀・銅を含む地下水が地表近くで冷えて、中に含まれている金属が固まることで、銀の鉱床※・鉱脈※がうまれました。鉱脈の深さや特徴にあわせて、さまざまな採掘や製錬の技術や知恵が生み出されました。

### ○鉱床の形成

仙ノ山が火山活動によってできたことと、鉱床が形成されたことには、深い関係があります。鉱床ができる要因には地下のマグマ自体が冷えたり、マグマに熱せられた水によってできたりと、マグマに由来するものが多くあります。マグマによって熱せられた地下水には、岩石中に含まれる金・銀・銅などの物質が溶け出します。それが地中の割れ目や断層に沿って上昇し、地表近くで冷やされます。温度が下がることで溶けていた




鉱床のでき方

銀鉱石（福石）

**知ってる？ 鉱山や火山を生み出すプレート活動**

石見銀山だけでなく、日本には多くの鉱山があります。その背景には、日本の地学的な特徴があるのです。

地球の表面はプレートという厚さ100kmほどの十数枚の岩盤で覆われています。このプレートは、地球内部の活動により、新しく作られたり、別のプレートの下に沈み込んだりと絶えず動いています。日本はちょうどプレートが沈み込む位置の真上にあります。このときの摩擦や岩石中に含まれる水などの作用によってマグマが形成されたり、非常に大きな力でプレート同士がこすれ合ったりします。そのため、日本は火山や地震の多い国なのです。

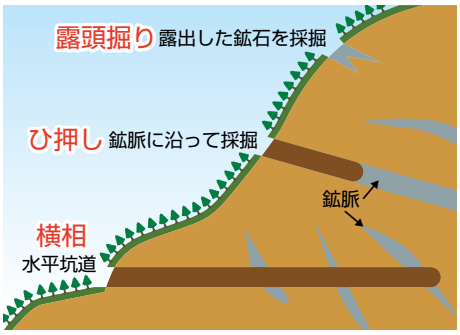
ときには災害を被ることもありますが、これらの現象が、石見銀山のような鉱床、各地にある温泉、富士山のような美しく雄大な地形など、日本らしい様々な特徴を形成したのです。

物質は沈殿し、割れ目や断層を埋めて鉱床となります。石見銀山では東西方向に亀裂が入っていたため、鉱脈も東西方向に向かって存在しています。

鉱物の種類は、地下のマグマの成分や地質条件によって違います。石見銀山では自然銀や輝銀鉱など銀を含む鉱石が多く得られる福石鉱床※と、銀を含む鉱石のみでなく黄銅鉱のような銅を含む鉱石を産出する永久鉱床※の２つの異なった特徴を持つ鉱床がありました。そのため石見銀山では、銀だけなく銅の生産も行われていました。

## ○採掘の方法

鉱石の採掘は３つの掘り方で行われました。地表面に露出した鉱石を掘る「露頭掘り」、鉱脈に沿って掘り進む「ひ押し」、鉱脈に対して垂直な方向に掘る「横相」の３つです。横相は鉱脈を探したり、坑道にたまった水を排出したりする役割もありました。ひ押しや横相は、東西に鉱脈が走っているという石見銀山の鉱山の特徴に適した掘り方です。龍源寺間歩や大久保間歩は、横相で採掘するための坑道です。釜屋間歩のある本谷地区などを歩くと、露頭掘りやひ押しなどを行った跡が残っています。



採掘の方法

大久保間歩（横相）

本谷地区の露頭掘り跡

## (2) 銀の製錬方法

銀山で採掘された様々な鉱石から、銀などの有用な物質を取り出すための作業を製錬※といいます。製錬技術には、鉱石の種類や目的とする物質によって様々な方法があります。石見銀山では、朝鮮半島から伝えられた灰吹法※という技術で鉱石から銀を取り出していました。

石見銀山が開発された当初の灰吹法導入前は、採掘した鉱石を朝鮮半島へ運び製錬していたため、多くの無駄が生じていました。1533（天文２）年に灰吹法が伝えられ、石見銀山での製錬ができるようになったことにより、石見銀山での銀の産出量は急激に増えたのです。1602(慶長７)年には、１年間で約15tの銀が産出されたといわれています。

### ○灰吹法の導入による変革

採掘した鉱石から鉱物を取り出し、銀を作るまでに大きく３つの段階を経て製錬が行われました。

まず、かなめ石とよばれる石の作業台の上で鉱石を砕き、水洗いして、銀を含む鉱物を取り出します（選鉱）。続いて鉱物に含まれる銀を取り出すため、鉛を加え加熱します（素吹）。すると、貴鉛※と呼ばれる銀と鉛が混ざったものができます。最後に貴鉛を灰の上で加熱し、鉛だけを灰に吸い取らせることで銀（灰吹銀）を取り出します。この最後の工程が灰吹法と呼ばれるもので、かつて朝鮮半島から日本に伝えられた技術だと言われています。灰吹の作業を繰り返し行うことで、段階的に銀の純度を高めていました。

石見銀山で導入された灰吹法は、兵庫県や新潟県の銀山など各地へ伝えられ、日本の鉱山技術に変革をもたらしました。

①選鉱

鉱石を砕き、水の中でふるって銀を含む鉱石の破片を取り出します。

②素吹

鉛を加えて加熱し、貴鉛をつくる。

③灰吹

灰の上で加熱し、不純物と一緒に鉛を灰の中にしみこませる。

④灰吹銀

純度の高い灰吹銀ができる。(写真は石見銀山遺跡で出土したもの)

## 中国地方のたたら製鉄

中国地方では、たたらと呼ばれる伝統的な技法によって砂鉄から鉄を製錬していました。たたらでは砂鉄と炭を混ぜて加熱することで鉄を取り出します。

砂鉄は鉄と酸素が結びついた物質なので、鉄を得るためには砂鉄から酸素を取り除く必要があります。砂鉄と炭を炉の中で加熱すると、砂鉄に含まれる酸素は炭と結びついて二酸化炭素になります。気体である二酸化炭素は炉から出ていき、炉内には鉄が残ります。これは還元※という化学反応を利用したもので、できた鉄の中で良質のものは玉鋼と呼ばれ、日本刀の材料となりました。

たたら場の様子（提供：出雲市）

このように、金属の「製錬」は石見銀山の銀生産だけでなく、各地で採れる鉱石の種類や目的とする物質によって、独自の製錬方法が存在していたのです。

## 現代の製錬技術と資源の有限性

現代に生きる我々の生活には銀や鉄だけでなく、金やアルミニウム、レアメタルと呼ばれる希少な金属など、様々な金属が欠かせません。大量に必要となった金属を製錬するために様々な方法が生み出され、どれも目的の金属を取り出すために工夫されています。

例えば、身近な金属の一つであるアルミニウムは、ボーキサイトと呼ばれる鉱石を薬品で処理し、電気を流すという方法で製錬します。また、日本では多くの鉱山が閉山となりましたが、使わなくなった携帯電話やパソコンなどから、金銀やレアメタルなどを取り出す方法もとられています。これは、都市で廃棄された家電や電子機器の山を鉱山にみたてて「都市鉱山」などと呼ばれています。

多様な製錬技術は我々の生活を豊かにしてきました。しかし、金属資源の量には限りがあり、使い続ければいずれなくなります。リサイクルを行うなど、資源の浪費を抑え、我々の生活を将来にわたって持続可能なものにする努力が必要なのです。

# ❸石見銀山の銀鉱石の採掘

## (1) 石見銀山の発見

室町時代末期の1527（大永7※）年、博多の商人神屋寿禎は、出雲大社の近くの鷺銅山に向かって日本海を航海していました。その途中、韓島沖を航行中に、はるか南の山が輝くのを見て驚きました。船頭から、それは銀峯山（仙ノ山）という名で、鎌倉時代にはその山から多くの銀が採れたということを聞きました。

鷺銅山に着くと経営者の三島清右衛門に、このことを相談しました。寿禎と清右衛門は3人の技術者と仙ノ山に行き、銀鉱石を発見したといわれています。

その頃、石見国を支配していたのは守護大名※の大内氏でした。大内氏は、博多の商人と共に中国との勘合貿易※を独占的に行って大きな利益を得ていました。寿禎も、この勘合貿易に携わっていました。国際商人としての知識と技術力、そして大内氏から援助を受けて、石見銀山の開発を進めたのです。

大内義隆

### 知ってる？ 金銀山の見つけ方

神屋寿禎の時代には、金・銀・銅などの鉱床を発見する山相法という方法がありました。

◆遠くから山相を観察する

露出した鉱石から発する色合いや光（精気）を見つけると言います。金は華、銀は龍、銅は虹、鉛は煙、錫は霧のような精気と伝えられています。寿禎が見た山の輝きも、この「精気」のことだったのかもしれません。

◆山の植物を観察する

金山草や白山旗竿、ヘビノネゴザとよばれる植物などは金属に耐性があり、金属分の多い土地にも生えるため、金銀を発見する際に参考となりました。

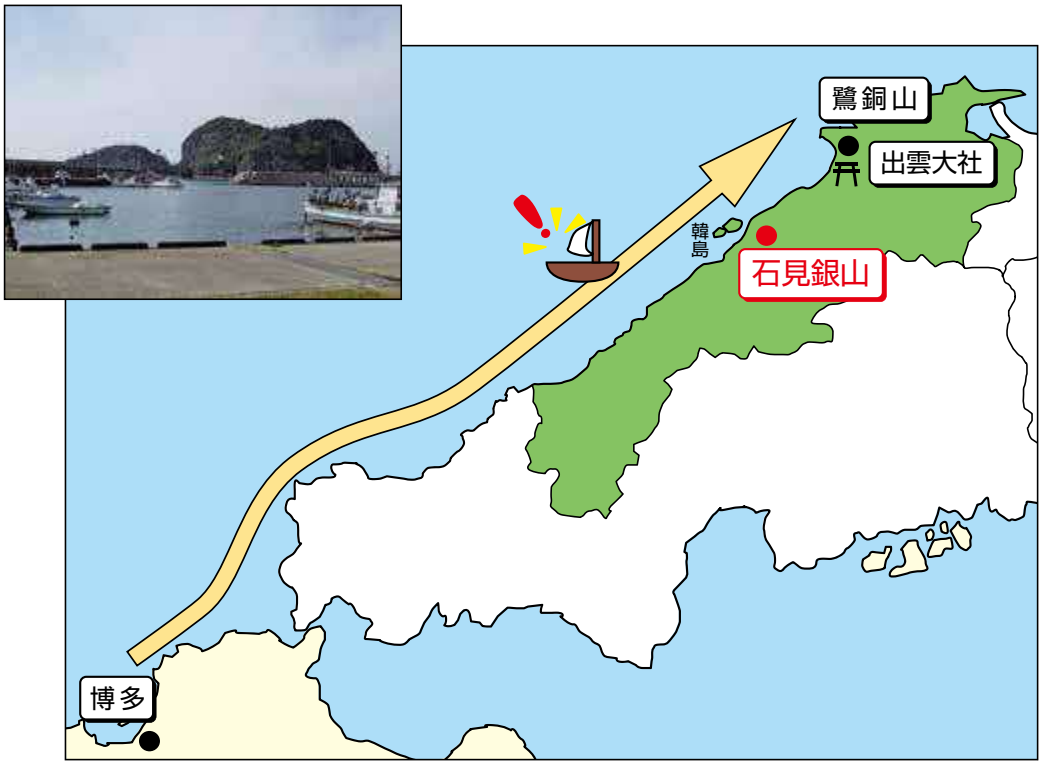
◆川の石を観察する

谷間の川に堆積した土砂から鉱物を発見し、上流の山中へとさかのぼって鉱床を探しました。

白山旗竿

韓島沖からみた石見銀山方面

宅野港からみた韓島




神屋寿禎と石見銀山の発見伝承

## (2) 石見銀山での鉱石の採掘方法

明治時代になるまで、石見銀山では、鉱石の採掘は機械や火薬をつかわず、すべて手作業でされていました。現在でも、これらの採掘の跡は残っています。有名な龍源寺間歩は全長約 600m もあり、ノミで削った跡も残っています。

### ○【掘る】【運び出す】

坑道は間歩と呼ばれていました。石見銀山では、間歩は、縦約 120cm、横約 60cm と決められていました。大人が腰をかがめて歩くのが精一杯の坑道内で、昼夜交代で銀鉱石を掘り出していました。

間歩の入り口

螺灯と銀掘の再現

採掘の様子
(「銀山稼方絵巻」提供:中村俊郎氏 以下同)

しきまつ(採掘する時の敷物)

足半(軽くて動きやすい草履)

鉱石を運び出す様子

**知ってる? 銀鉱石の種類**

石見銀山の周辺には約 105 種類の鉱石があったそうです。人々は鉱石の形や色から卵、味噌、魚の鱗、馬の歯など身近な名前を付けました。

「卵石」……卵のような鉱石で銀が多く含まれる。

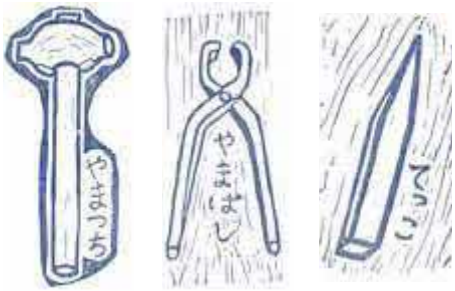
「焼味噌地」……焼け焦げた味噌のような鉱石で銀が多く含まれる。

「鱗地」……表面が魚の鱗に似ている鉱石で銀が多く含まれる。

「馬歯鏈」……馬の歯に似ている鉱石で銀は少し含まれる程度。

間歩で作業をする人たちには、鉄子（鏨）で掘る「銀掘」、掘るのを手伝う「手子（10歳前後の子ども）」、掘った石を運び出す「柄山負」という役割がありました。暗い坑道内では、サザエの殻などに油を入れて火をともして明り（螺灯）にしていました。

採掘作業では、鉄子を山箸ではさみ、山槌でたたいて銀鉱石を掘り出していました。固い岩なので５時間で 30cm ぐらいしか掘り進むことができませんでした。



**らとちゃん**

大田市のマスコットキャラクター「らとちゃん」は、螺灯と銀掘の衣装をイメージしたものです。

大田市マスコットキャラクター
らとちゃん ©2016大田市K246

## ○【地下水をくみ出す】【空気を送る】

深く掘り進むと地下水がわき出てきます。「水吹子」と呼ばれる、木製のポンプのような道具を使い、人力で水をくみ出していました。また、坑道内は空気の循環が悪く、酸欠状態になることもありました。そこで、「唐箕」と呼ばれる農具などを使い、坑道内に人力で空気を送り込んでいました。

例えば、龍源寺間歩は、坑道内の空気の循環を良くしたり、地下水を流したりする役割のある水平坑道でした。また、間歩の入り口や中は、木（栗の木）や石を使って「留木」や「石留」という支えをつくり、坑道がくずれないようにしていました。

地下水を汲み出す様子

唐箕で空気を送る様子

留木の様子

## (3) 銀を運ぶ道

石見銀山で産出された銀は、どんな道を通って、どこへ運ばれていったのでしょうか。実は銀山の開発が行われた大内氏の支配した時代、灰吹法が取り入れられ大量生産が可能になった毛利氏の支配した時代、そして江戸幕府が統治する江戸時代、それぞれで運ばれる銀の形態、ルート、目的地も異なっていました。どのような違いがあるのか、時代順にみてみましょう。

### ○鞆ケ浦道（大内氏の支配した時代）

石見銀山が博多の有力商人、神屋寿禎によって「発見」されたころ、守護大名として石見国を支配していた大内氏は、博多の商人と結んで中国との勘合貿易を独占的に行って、大きな利益を得ていました。

石見銀山が開発された当初、銀を含んだ鉱石は、馬路高山のふもとを通り、仁摩町馬路の鞆ケ浦の港に運ばれていました。銀鉱石はとても重く、海へ運ぶ最短ルートとしてとられたのが、鞆ケ浦道です。鞆ケ浦の港は銀山柵内から西に6kmの位置にあります。

仁摩から温泉津にかけての海岸線は、複雑に入り組んだリアス海岸です。鞆ケ浦は西に向かって開く細長い湾ですが、湾の入り口の北側に鵜島と沖ノ鵜島があって、波静かで北西の季節風の影響を受けにくい天然の良港です。ここに運ばれた銀鉱石は船で博多へ積み出されていきました。

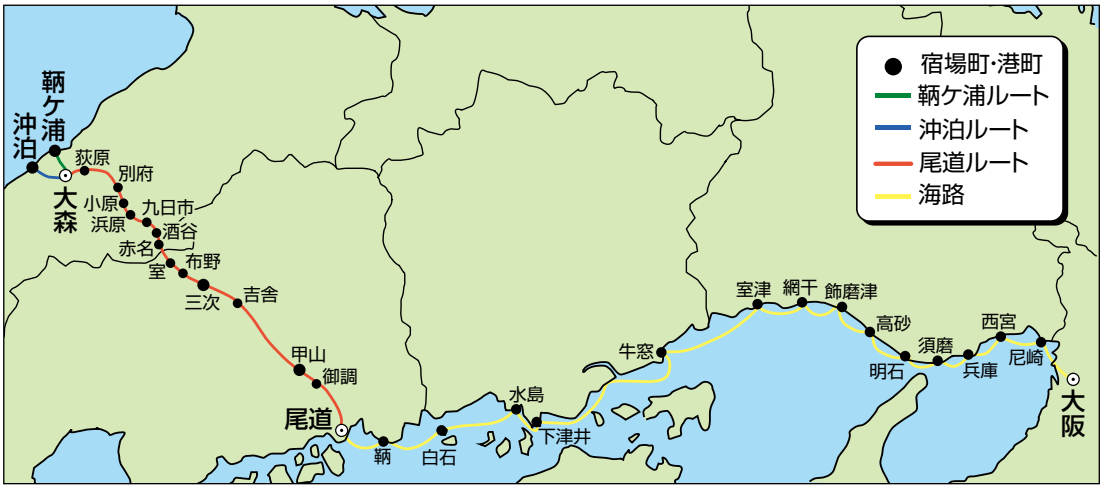
港を訪れると、銀山の発見者・神屋寿禎が建立したと伝えられる厳島神社や、船をつなぎ止めるのに使用された鼻ぐり岩※が残されています。また、銀の貯蔵庫跡と伝えられる場所からは、銀鉱石が見つかっています。

鼻ぐり岩

### ○温泉津・沖泊道（毛利氏の支配した時代）

灰吹法が導入され、灰吹銀が大量に生産されるようになると、鉱石ではなく銀そのものを運び出すようになります。港も多くの船が入港できる温泉津・沖泊に移りました。ここは銀山柵内から西南西に8.8kmの位置にあります。1562（永禄5）年、銀山を手に入れた毛利氏は温泉津を銀山の外港として直接支配しました。

温泉津港は海が深く波静かで、大型船が楽に入港することができます。そのため、灰吹銀を運び出す船や、銀山で使われる薪や炭、米などを積んでいた船がどんどんと温泉津港に入ってきました。




鞆ケ浦道と温泉津・沖泊道、銀山街道

江戸時代になると灰吹銀の輸送路は陸路に変わりますが、温泉津・沖泊道は、温泉津港に入ってくる銀山に必要な生産･生活物資を運ぶ道として引き続き利用されていきました。

## ○銀山街道（尾道ルート・江戸時代）

江戸時代、石見銀山の灰吹銀は貨幣の材料となりました。

石見銀山の初代奉行となった大久保長安は、これまでの海路での輸送をやめ、石見銀山から中国山地を越えて瀬戸内地方へ輸送する陸路を用いました。このルートは、日本海から瀬戸内海を通るルートと比べて海難の心配がなく安全に運ぶことができるため、公式の銀山街道として幕末まで続いていきます。

銀山街道尾道ルートは、上の地図のように大森から尾道（広島県）までの約 130km の道のりを４日間かけて運びました。幕府は銀を運ぶための人や馬を準備しなければなりませんでした。そこで周辺の村々から、村の規模に応じて人馬を強制的に出させる制度（助郷→６章）を用いました。

尾道から大阪までは海路で運びます。「大坂御銀蔵」に納められた灰吹銀は、京都の銀座※で銀貨に鋳造されました。

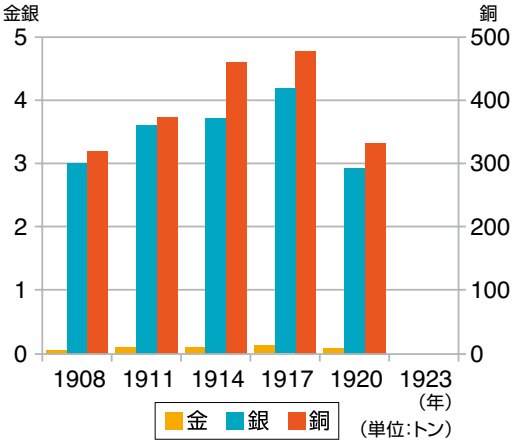
## (4) 石見銀山の休山

江戸時代 1624（寛永元）年、１年間に約 8.2t の銀を産出した後、石見銀山では良い銀鉱石が採れなくなってきました。良い銀鉱石を採るために、深くまで坑道を掘りました。坑道内での作業はますます難しくなり、たまった地下水をくみ出すための費用も多くかかるようになってきました。しばらくは、１年間に約 1t の銀が産出されていましたが、江戸時代の終わりごろには、１年間に約 375kg しか採れなくなりました。

明治時代になると、1886（明治 19）年に藤田組（現在の DOWA ホールディングス株式会社）が藤田組大森鉱山として経営と開発を始めます。

1893（明治 26）年には、永久坑の開発を進めるために、仁摩町大国柑子谷に新しい製錬所を建設しました。永久坑では主に銅鉱石が採れたので、銅の産出が多くなりました。また、1895（明治 28）年には清水谷製錬所を建設しましたが、期待通りに銀鉱石が採れず、約１年半で閉鎖されました。

稼働中の清水谷製錬所




大森鉱山の明治・大正時代の金銀銅産出量
（同和鉱業株式会社『創業百年史［資料］』より作製）

## ○大正・昭和時代の石見銀山

大正時代には、永久鉱床で銀や銅を多く含む鉱石がよく採れる鉱脈が発見され、発電所を建設して電力化したり、新しい製錬炉を建設したりしました。そして、1917（大正６）年には、金銀を含む銅が約 250t 産出されました。そのころは第一次世界大戦の最中であり、銅などの金属が大量に必要とされていました。しかし、戦争が終わると、銅の値段が急に下がります。鉱山は経営不振になり、1923（大正 12）年に休山となりました。

昭和時代に入り、再び銅鉱石の採掘を試みましたが、1943（昭和 18）年の大水害のため、設備が流されたり、坑道が水没してしまったりしたために再開を断念しました。その後、新たに開発されることなく完全に閉山となりました。

## 鉱山の灯が消えた日

閉山当時の様子を『島根百年』（毎日新聞社 1968 年刊）は次のように伝えています。

「山口忠三所長ら残存職員や吹大工が真吹炉の周囲に集まり、みんなが見守る中に最後の銅が吹終わるとまずモーターが止まり、続いてうなり声をあげていたブロアー（せんぷう機）が動かなくなった。いままでの真昼のようにあかるかった真吹炉の火がオレンジ色に、ついで穏やかなほのおの色に変わったかと思うと、やがて次第に光を失ってついにあたりは真っ暗になった。「火が消えたような」ということばそのままに所長も職員も労務者も、その暗やみの中でハラハラと涙を流し合った。」（同書 209 頁）

稼働中の永久製錬所

また休山当時、坑道内で、ポンプでのわき水の吸い上げを担当していた今田正光さん（明治 38 年生・故人）が 2001 年に次のように話しておられました。

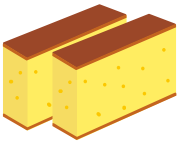
＊ 1918（大正 7）年から 1923 年の休山まで働いていた。
＊ 12 歳から 15 歳までは製錬所で坑内から出た鉱石の選別やそれに伴う水洗いをしていた。
＊ 15 歳になると坑内作業担当となり、湧水を汲み上げる大型ポンプの担当となった。
＊坑内労働は 8 時間 3 交代。8 時間働いたら交代がやってくるので仕事の終わりがわかった。
＊手が足りないときには「マシ」といって、次の 8 時間を続けて働くこともあった。ポンプ作業だからマシもできたが、採鉱にあたるものは身体がきつくてできなかった。
＊ 6 台のポンプがあり、6 人一組で交代していた。
＊『今日でしまいだ』と言われてポンプを止めたときは感慨深かった。止めると急いで解体し上に持って出なければ水がたまってきた。

今田さんのお話は、閉山の感慨もさることながら、現在でいうと中学生、高校生の時期に一人前の労働者として、鉱山で働いていたことがわかります。学業に専念できる環境にあるみなさんには、働くことや学ぶことについて、いま改めて考えてみてほしいです。

# ④石見銀山と国際貿易

## (1) アジアとヨーロッパがつながる時代

カステラ、金平糖、ボタン、カッパ、カルタ、タバコ、これらの日本語は、ポルトガル語が語源だったと知っていますか。カステラから順に、それぞれポルトガル語では castella、confeito、botao、capa、carta、tabaco といいます。確かにポルトガル語によく似ています。



かすてら

石見銀山が発見された 16 世紀（1501 ～ 1600 年）の日本は、中国・朝鮮をはじめとするアジア諸国との交流がさかんになると同時に、東方に進出してきたポルトガルなどのヨーロッパ人との国際貿易の輪の中に含まれていきます。なぜこのような変化が見られたのでしょう。

金平糖

### ○大航海時代の幕開け

ヨーロッパは牧畜がさかんで、肉の保存や味つけに香辛料※を使いました。しかし、香辛料はインドや東南アジアが原産地で、イスラム商人などを経由して輸入したため、非常に高価でした。例えば、香辛料の一種であるクローブは、ヨーロッパでは原産地の約 360 倍の値段だったといいます。

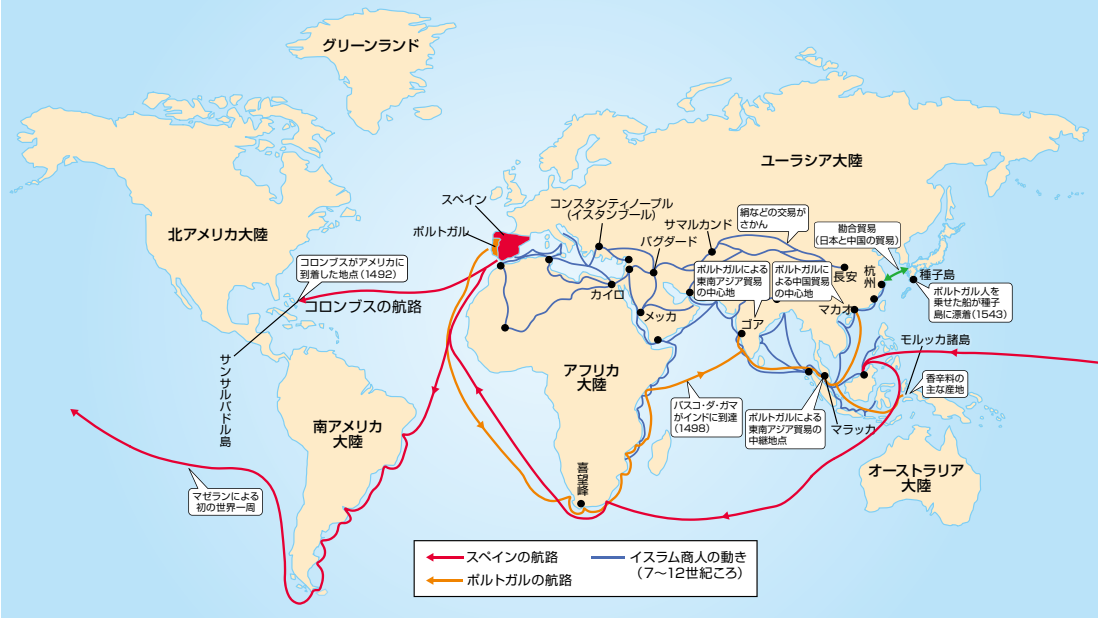
クローブ

そこで 15 世紀末のヨーロッパ人は、アジアの豊かな物産、特に香辛料をイスラム商人の手を経ず直接手に入れようとしました。なかでもポルトガル人は、冒険的な船乗りや商人を先頭に大西洋の荒海をアフリカ西海岸に沿って南下していきます。彼らは 1488 年アフリカ南端の喜望峰に達して、海路でインドに行けることを明らかにしました。

バスコ・ダ・ガマ

1498 年にはバスコ・ダ・ガマがインドにわたり、その物産を持ち帰りました。このように、ヨーロッパ人が活発に海へ乗り出すことによって、ヨーロッパとアジアをつなぐ新航路が開拓されていきます。

また、ヨーロッパ人はイスラム教に対抗して、キリスト教も広めていきました。




大航海時代にひらかれた航路と貿易

## ○ポルトガルのアジア進出

インド航路を開拓したポルトガルは、インドのゴアに本拠地をおき、モルッカ諸島（現在のインドネシア）を占領してインド貿易を独占しました。その後中国へと進出しますが、中国政府との貿易は実現できませんでした。

そこでポルトガルは、中国との正式な貿易ではなく、中国南部の商人たちとマカオなどで密貿易を行いました。ここには中国だけでなく、朝鮮、東南アジアの商人も集まり、活発な交易が行われました。

1543（天文12）年、フランシスコとアントニオ・ダ・モタ等のポルトガル人を乗せた中国人の船が種子島（鹿児島県）に漂着しました。このとき日本に鉄砲が伝えられましたが、ポルトガル人来航の大きな目的の一つは、石見銀をはじめとする日本銀を手に入れることでした。

# 大航海時代以降の人と物の動き

★南アメリカからヨーロッパへ伝わったものには、ジャガイモ、サツマイモ、トマト、トウモロコシ、タバコ、トウガラシ、カカオなどがあります。

## (2) 銀の世界的流通と日本銀

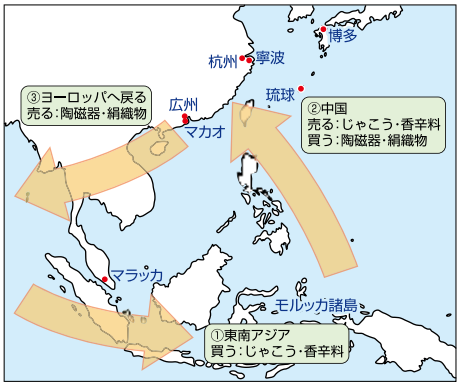
ポルトガルのアジア貿易は、はじめはインド銀を資金にして東南アジアでじゃこう※や香辛料を購入し、それを中国に持ち込んで絹織物・陶磁器などと交換してヨーロッパに持ち帰るというものでした。

1543（天文12）年の種子島漂着以降、日本との貿易が本格的になると、次第にポルトガルの貿易は日本銀を中心として繰り広げられるようになります。まず、中国で安い生糸※を手に入れ、それを高く買い取ってくれる日本へ持ち込んで銀に交換します。そしてこの日本銀をもとに、今度は中国産の絹織物や陶磁器、東南アジアの香辛料を購入して、ヨーロッパへ持ち帰り、大きな利益をえていました。このようにポルトガルは日本銀をもとにした中継貿易で栄え、ヨーロッパの強国となっていったのです。

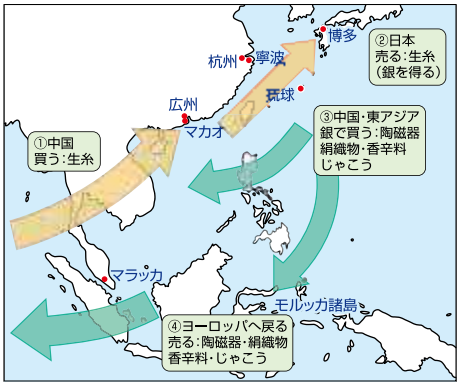
当時、日本にやってきていたポルトガル人やスペイン人を南蛮人とよんだので、この貿易を南蛮貿易とよびます。

**ポルトガル人の交易**

日本到達【前】




日本到達【後】

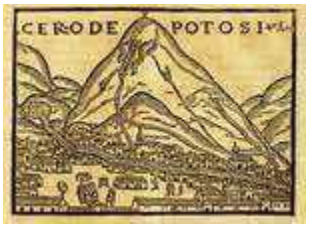


南蛮貿易の様子（「南蛮屏風」提供：神戸市立博物館）

## ○スペインの南アメリカ進出

コロンブス

スペインは、東へ向かってインドに到達したポルトガルに対抗して、西回りでアジアに行く航路を開こうとします。そこで、イタリア人のコロンブスを援助しました。1492 年、大西洋を横断してカリブ海に到達したコロンブスは、そこをインドの一部だと信じました。しかし、そこはインドではなく、近くにはそれまでヨーロッパ人の知らなかったアメリカ大陸が広がり、独自の文明が栄えていました。スペイン人は、16 世紀前半に武力でこれを征服し、滅ぼしたのでした。（28・29 ページ参照）



ポトシ銀山◆

スペインはポトシ（ボリビア）やサカテカス（メキシコ）などの銀山の開発にあたりました。ポトシ銀山（ボリビア）では先住民族のインディオを強制的に働かせ、大量の銀の採掘をしました。こうして採掘された大量の銀をスペインへ送ったため、ヨーロッパでは銀の価値が下がったといわれています。また、スペインはアジア貿易にも参加し、アカプルコ（メキシコ）の港からマニラ（フィリピン）へ銀を持ち込み、アジアとの交易を行いました。

このように、日本の石見銀山でもっとも多くの銀を産出していた時代は、世界の他の鉱山開発も活発に行われていました。銀はヨーロッパでもアジアでも大量に必要とされており、交易や開発を通して銀が世界中をめぐり、人と物、文化の交流を生み出したのです。

### 南米のポトシ銀山

ポトシ銀山は 1545 年にみつかってから大量の銀を産み出し、ばく大な富をスペインにもたらしました。ポトシの銀はアメリカ大陸だけでなく、スペインからヨーロッパへ広く流通しました。さらに、メキシコのアカプルコから太平洋をわたって中国にも達しました。

銀によってポトシは大きな都市となり、多くの人やものが集まっていきました。一方で、鉱山での働き手として現地の人々が強制的に集められ、過酷な環境・条件の下での労働が強いられていました。あるスペインの修道士はポトシ銀山を「地獄の入口」と表現しており、採掘にあたった人々の苦難が想像されます。

◆ Courtesy of the John Carter Brown Library at Brown University

## (3) 貿易と日本社会の変化

16 世紀の日本は、交易で鉄砲を手に入れ、その技術をまねして日本製の鉄砲を生産することで、戦や政治が大きく変わりました。また、ヨーロッパとの交流を通してキリスト教も伝えられ、日本人の中に広まっていきます。そして、交易品としてとても重要な絹の素材である生糸が、ポルトガル人の積極的なアジア交易を通して大量に輸入され、織物技術や着物の伝統も大きく発展していくのです。

日本銀を中心とした国際貿易が、当時の日本社会にどのような影響をおよぼしたのか、くわしくみてみましょう。

### ①鉄砲の伝来が統一政権の誕生を早めた

1543（天文 12）年、ポルトガル人を乗せた中国の船が種子島（鹿児島県）に流れ着きました。この船は中国人の倭寇のものでした。このとき日本に鉄砲が伝わります。種子島の領主は 2000 両で鉄砲２挺を買い、職人に模造品をつくらせたところ、数十挺の鉄砲ができました。鉄砲は戦国大名に注目され、各地に広まります。堺（大阪府）や国友（滋賀県）などでは、刀鍛冶職人によって鉄砲がつくられるようになりました。鉄砲が広まることによって、戦い方の変化と築城技術の向上がもたらされ、全国統一の動きが促進されました。

### ②キリスト教の伝来

フランシスコ・ザビエル
（提供:神戸市立博物館）

1549（天文 18）年、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルがキリスト教を伝えるために来日しました。ザビエルは 1552 年、インドのゴアにいるロドリゲス神父にあてた手紙に「カスチリア人はこの島々をプラタレアス群島（銀の島）と呼んでいる。」と述べ、当時の日本を「銀の島」と紹介しています。彼は、鹿児島、山口、京都、豊後府内（大分県）などで布教し、２年余りで日本を去りましたが、残った宣教師が布教活動に努めました。

日本にやってきた宣教師は、貿易商人をともなっていました。貿易の利益に着目した九州各地の戦国大名のなかには領内の港に貿易船をよぶためもあって、キリスト教徒（キリシタン）になる者もあらわれました。これをキリシタン大名とよびます。宣教師たちは、長崎や豊後、京都などの各地に教会、修道院※、学校、病院、孤児院などを作り、布教や慈善事業を行いました。このため 17 世紀のはじめには、キリスト教の信者が 30 万人を超えたといわれています。

島根県のあるあたりに
「Argenti fodinæ（銀鉱山）」
「Hivami（イワミ）」と書いてあります。

ティセラ「日本図」（提供:島根県立古代出雲歴史博物館）

## ③織物産業の発展

中国との貿易では、利益の中心は絹織物の素材となる生糸でした。中国から輸入した大量の生糸を用いて、複雑な模様を織りなす西陣織（京都府）や博多織（福岡県）などが発展しました。中国から新しい織機を導入するなど、日本の絹織物生産が刺激をうけたのです。

これらの絹製品は日本人の着物に影響を与えただけでなく、朝鮮や琉球にも輸出されていきました。

西陣織

# 5 石見銀山をめぐる争奪戦

## (1) 戦国時代の日本と石見銀山

石見銀山が発見された1527（大永7）年の頃の日本社会は戦国時代の直中でした。戦国時代とは、1467（応仁元）年から11年にわたる応仁の乱がおこって室町幕府の支配力がおとろえ、実力のある者が勢力をのばし、身分の上の者を打って代わる下剋上の世の中です。

また、当時（1500年代）は、ヨーロッパ各国が世界各地に貿易を求めてアジア、アフリカ、アメリカへと進出した大航海時代でした。さらに、日本と中国との貿易（勘合貿易）が行われていたように東アジアでの貿易も盛んに行われていました。そして、それら国際貿易で貨幣として使われたものが銀でした。

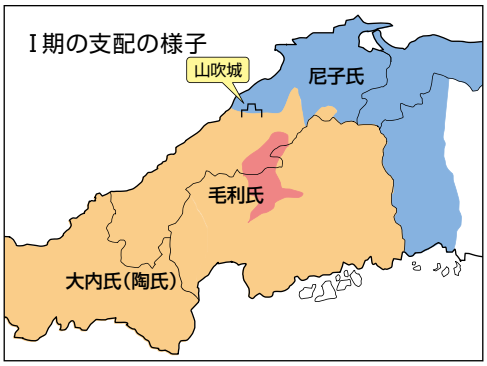
つまり、良質の銀を大量に生み出す石見銀山は、文字通り「宝の山」だったのです。ですから、その石見銀山を支配下に入れるために、中国地方の戦国大名たちが争奪戦を繰り広げました。

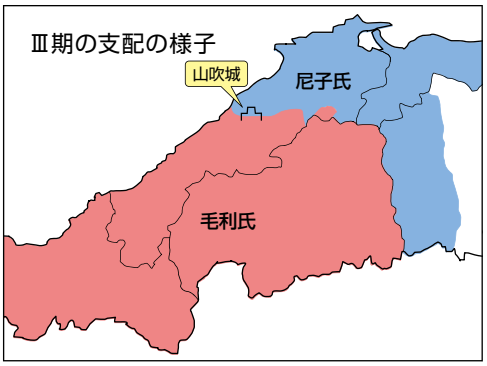
### ○石見銀山争奪戦

神屋寿禎が石見銀山を「発見」したとされる1527年からの大内氏の支配に始まり、石見銀山の支配者は、その時の勢力の強さによって変わります。これが、石見銀山をめぐる争奪戦です。

1527年から1600（慶長5）年に徳川氏のものになるまでを3期に分けると次のようになります。

- Ⅰ期　1527年～1556年 大内氏（1551～1555年 陶氏、1556年 毛利氏）
- Ⅱ期　1556年～1562年 尼子氏
- Ⅲ期　1562年～1600年 毛利氏



それでは、支配者が変わるたびに、石見銀山で銀の採掘や製錬をする人たちも入れ替わったのでしょうか。実は、鉱山で働く人たちは変わっていません。

地図にあるように大内氏、尼子氏、毛利氏という戦国大名たちは山吹城を中心とする石見銀山の土地そのものを支配しました。そしてその際、銀の採掘・製錬の技術者集団をそのまま自分の支配下におくよう努めたのでした。ですから、争奪戦が繰り広げられている間も、石見銀山での銀の採掘・製錬は続けられていました。

## ○戦国大名が石見銀山を支配したがった理由

なぜ、戦国大名は石見銀山を支配したがったのでしょうか。その答えは大きく二つあります。

まず一つは軍資金です。毛利元就は遺言で「石見銀を軍資金に充てよ」と指示したと言われます。このエピソードから分かるように、これだけの動乱期には軍資金（軍事費）は相当な額が必要だったと考えられます。石見銀山から産出された銀は、主にその軍事費になりました。特に、この時期に日本へ伝わった鉄砲や、火薬の原料である硝石※を入手するために、銀はとても役立ちました。

また、戦をするためには武器や兵糧等を整えたり、道を整備するなどの土木工事に使うなどたくさんのお金が必要となります。さらに、支配した領地に城や町をつくるとなると建築土木の工事費がかさみますし、家臣の数が増えると、それらを養うための食糧費も必要です。戦いをするということは、軍事費のほかに、こうした戦いの後に必要になるお金も、たくさんありました。そのため、戦国大名は石見銀山をほしがりました。

もう一つは、貿易での利用です。石見銀山に目をつけた博多の商人神屋寿禎は、大内氏が行っていた勘合貿易に関わりがあったと言われます。その商人が発見・開発したことからも、石見銀山の生み出す銀が貿易に必要なものであったことがわかります。大内氏にかわって中国地方を支配した毛利氏、さらに、全国を統一した豊臣氏、徳川氏が石見銀山の銀を必要としたのは、この国際貿易の中での銀の重要性をしっかりと分かっていたからです。徳川家康は、1600年の関ヶ原の戦いの十日後に、石見銀山を直轄地にしました。江戸に幕府を置くのが1603（慶長8）年ですから、それよりも早く、とにかく石見の銀を押さえたかったのです。このように、石見銀山の銀は、時の支配者にとって非常に重要なものでした。

## (2) 地元に残る石見銀山争奪戦を伝えるもの

石見銀山争奪戦の様子は、川合町の「忍原崩れ」や温泉津町の「七騎坂」など、古くからの言い伝え（伝承）として、その地域に残っています。ここでは、今も実物として残っているものを紹介します。また、市内に多く残っている山城跡もみてみましょう。

### ○長福寺（波根町）の福田衣

長福寺の福田衣

波根の長福寺には左のような福田衣※が残っています。

これは、毛利元就から当時の満蓮社（今の長福寺）にいた三休上人に贈られた陣羽織※を、袈裟に羽織れる衣服に仕立て直したものです。では、なぜ元就が三休上人に陣羽織を贈ったのでしょう。それは、次のようなことがあったからです。

1543（天文 12）年、元就は大内氏の尼子攻めに参加しました。しかし、この尼子攻めは失敗し、大内軍は出雲から石見へ敗走します。元就は満蓮社に身を寄せ、三休上人に出会います。その時、三休上人は元就をみて、元就が中国地方の覇者になることを予言しました。またそれと同時に、戦場で命を守る「矢違いのお守り※」を渡したと伝えられています。

「矢違いのお守り」を刷るための版木

三休上人の予言通り、中国地方の大大名になった元就は、尼子の月山富田城を攻め落とした後、1567（永禄 10）年に再び満蓮社に寄り、お礼とともに、戦勝記念の陣羽織を三休上人に贈りました。その福田衣が 400 年以上たった今も長福寺に大切に保管されているのです。

### ○円光寺（久手町）の多胡辰敬肖像画

多胡辰敬の肖像画

右の写真の肖像画に描かれた人物は、尼子方の武将 多胡辰敬です。辰敬は、久手町刺鹿の岩山城主でしたが、尼子が銀山争奪戦に敗れるとき、1562(永禄5)年2月、落城とともに自害しました。そんな辰敬がなぜ肖像画として残っているのでしょう。

それは、彼の遺した、子どもたちにどのように生きていくか生きていく上で何を大事にすべきかを示した「多胡辰敬家訓」が尊いものだったからです。多胡氏の家訓は全部で 26 の教えがあります。そのうち、始めの３つをみてみましょう。

まず大事なのは、「手習学文」です。「手習学文」とは、今の勉強や学問のことです。それがないと、「理非」（物事の道理や間違い）

## 多胡辰敬の遺した「多胡家家訓」

一　第一に手習学文なり。（中略）一つも若き時、夜を日になしても手習学文をすべし。学文なき人は理非をもわきまえがたし。理非を知らで物を申すは、人の耳に入らねば、（下略）

二　第二弓。武士をば弓取と申せばなり。（下略）

三　第三算用事なり。算用と申せば、天地開け始まりしより一年を十二月に定、一月を三十日に定、一日を十二時に定る事、皆算用なり。国を治め、郡郷庄村里をはからい、名田を持作するも、皆算用なり。（中略）算用を知れば道理を知る。道理を知れば迷いなし。（下略）

が分からないので、そんな人がいくら意見を言っても他人には分かってもらえないと言っています。それほど、勉強が大事と、400 年以上前に伝えているのです。

２番目は「弓」です。武士なのですが、武道より学問を優先していることがわかります。３番目は「算用」です。これは、単純に今の算数や数学ではなく「天地開け始まりしより一年を十二月に定、一月を三十日に定、一日を十二時に定る事、皆算用なり」とあるように、自然の摂理や物事の理のことであり、ものの道理を知ることで、迷いが無くなると断言しています。この他に家訓では、蹴鞠や料理なども大事と書いてあります。

多胡辰敬が家訓で大事にした人物像には、勇ましさだけでなく、文武両道で信義を重んじる教養人の姿が偲ばれます。それはこの 21 世紀にあっても通用するものです。

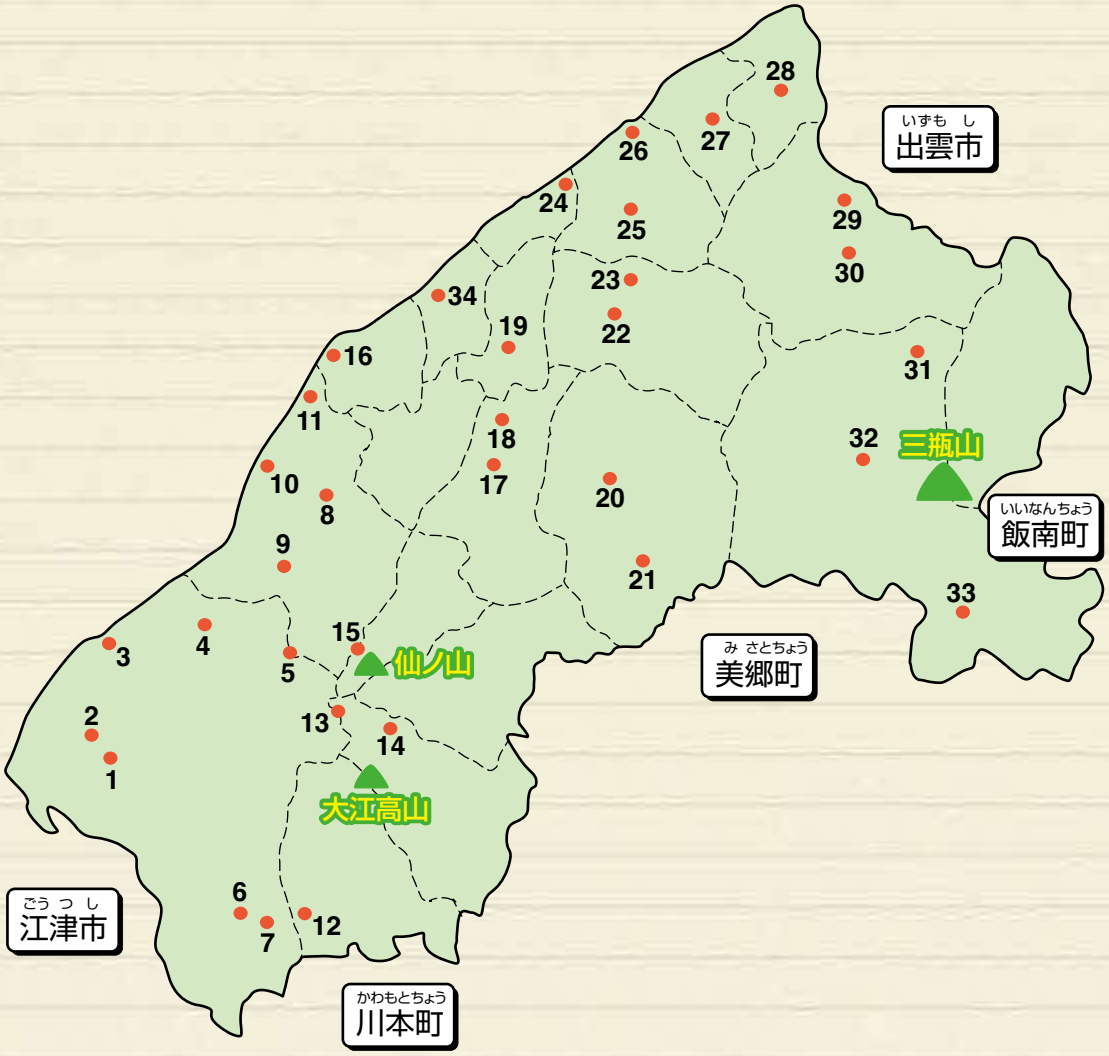
## やってみよう!!

**この「多胡辰敬家訓」は江戸時代の武士道を説いた『葉隠』や、昭和時代の著名な哲学者 和辻哲郎の『日本倫理思想史』でも取り上げられています。どちらも、大田市立図書館にあります。調べてみましょう。**

**「多胡辰敬家訓」には、多くの人が感銘を受け、彼の生き方とともに、後世に伝えられているのです。大田で成長するみなさんには 400 年以上前に、こんなすばらしい先輩がいたことを知ってほしいです。また、辰敬の遺した家訓はみなさんが自分の将来を考えるときの参考にもしてほしいものです。**

## ○地元に残る石見銀山争奪戦の跡は？

石見銀山争奪戦の跡は、前出の「山吹城」などの山城の跡や、伝承という形で忍原崩れ（川合町忍原）や七騎坂（温泉津町）など各地で残っています。ここでは、現在の大田市地図に各地に残る山城跡を、別表の番号で記入してあります。



### やってみよう!!

＊山城跡は、皆さんの校区にもありますから、調べてみましょう。
（参考資料：「石見の城館跡」島根県教育委員会編）
＊校区の地名で「城山」など「城」にかかわるものや、「殿居」「土居」「馬場」など武士が住んでいた名残のあるものもあります。調べてみましょう。

| No. | 山城名 | 所在地 | 標高 | 備考（別名等） |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 物不言城 | 温泉津町福波 | 100 | 福光城、不言城 |
| 2 | 妙見山城 | 温泉津町福波 | 80 | |
| 3 | 櫛島城 | 温泉津町温泉津 | 37 | 櫛山城 |
| 4 | 温泉城 | 温泉津町湯里 | 100 | |
| 5 | 矢筈城 | 温泉津町湯里 | 480 | 前矢滝城 |
| 6 | 井田城 | 温泉津町井田 | 370 | 弥山城 |
| 7 | 殿村城 | 温泉津町井田 | 340 | 高越城 |
| 8 | 石見城 | 仁摩町大国 | 153 | 石見山城 |
| 9 | 乙見城 | 仁摩町馬路 | 313 | |
| 10 | 仁万要城 | 仁摩町仁万 | 77 | 仁万古城山城 |
| 11 | 復城 | 仁摩町宅野 | 32 | |
| 12 | 大嶽山城 | 大代町大家 | 360 | |
| 13 | 矢滝城 | 祖式町矢滝 | 634 | |
| 14 | 高城 | 祖式町上町 | 500 | 祖式城 |
| 15 | 山吹城 | 大森町銀山 | 414 | 要害山城 |
| 16 | 唐郷山城 | 五十猛町五十猛 | 122 | |
| 17 | 市城 | 久利町市原 | 160 | 市原城（砦） |
| 18 | 城山城 | 久利町畑ヶ中 | 148 | |
| 19 | 稲用城 | 長久町稲用 | 69 | |
| 20 | 鶴ヶ城 | 川合町出岡 | 110 | |
| 21 | 亀谷城 | 川合町忍原 | 230 | |
| 22 | 常見の要害城 | 大田町末広 | 50 | |
| 23 | 松山城 | 大田町城山 | 167 | 大田城、大田要害山城 |
| 24 | 石弩城 | 鳥井町鳥井 | 83 | |
| 25 | 岩山城 | 久手町刺鹿 | 100 | |
| 26 | 鰐走城 | 久手町柳瀬 | 45 | |
| 27 | 旭山城 | 波根町上川内 | 129 | 上川内砦 |
| 28 | 城蓮城 | 朝山町朝倉 | ― | 遺構無し |
| 29 | 要害山城 | 富山町山中 | 299 | 富山要害山城、重蔵山要害山城 |
| 30 | 才坂要害山城 | 富山町才坂 | 282 | |
| 31 | 多根要害山城 | 三瓶町多根 | 450 | |
| 32 | 小屋原城 | 三瓶町小屋原 | 280 | |
| 33 | 城山城 | 三瓶町志学 | ― | 遺構無し |
| 34 | 静間城 | 静間町地山 | 40 | |

# 6 江戸幕府の石見銀山支配

## (1) 江戸幕府は石見銀山をどのように治めたのか

1600（慶長５）年、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、すぐに石見銀山とその周辺地域を幕領（幕府の直轄地）としました。戦国時代に各地の大名が奪い合っていた石見銀山を、徳川家康は江戸幕府の経済を支えるとても重要な地域として考えていたことが分かります。

石見銀山を幕領にすると、徳川家康は初代奉行として、大久保長安を任命し銀山の支配を行わせました。

幕領の支配は、幕府から任命された奉行（後に代官にかわる）と数名の手附・手代※、その土地の地役人によって行われていました。

徳川家康

### ○徳川家康による銀山の直轄化

1600 年、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、それからわずか十日後、石見銀山周辺七ヶ村に命令的禁止事項を示した禁制を発し、銀山の直轄化を図りました。

このことは、幕府の許可なく勝手なことをしてはいけないということで、事実上、幕府が直接支配するということになるのです。

**徳川家康の禁制**

一、軍勢甲乙人等濫妨狼藉事
（兵士も民も乱暴をはたらかないこと）

一、放火之事
（放火をしないこと）

一、田畑作毛苅取事　付剪採竹木事
（田畑の作物を荒らしたり、むやみに竹木を切らないこと）

家康の天下統一を確定させた大坂夏の陣では、石見銀山の掘り子（銀掘）もその技術を活かし活躍をしています。

**知ってる？**

**天領**

天領とは、江戸幕府が直接治める地域（幕領）の別名です。幕府は、米を豊富に生産する地域や、金・銀・銅などの鉱山資源が豊富な地域を天領にすることで、たくさんの食料や資金が安定的に得られるようにしたのです。

また、国を守るために重要な地域も天領とし、幕府の支配に反対しそうな地域や、外国からの攻撃に備えました。

### ○石見銀山を治める役人

幕領の支配は、幕府から派遣される奉行（後に代官にかわる）、その部下である手附・手代によって行われるのが一般的です。大森代官所では、この他に銀山の仕事について詳しい地元の者を役人として採用していました。これを地役人といいます。

## 徳川家康と日光東照宮

1616（元和2）年に死去した徳川家康は、駿河国（現在の静岡県西部）に葬られましたが、翌年、日光（現在の栃木県日光市）に江戸幕府の守護神として改葬されました。その後、3代将軍家光が、今のような立派な社殿を造営しました。

このような立派な社殿を建てるほどの江戸幕府の経済力を支えていたのも、石見銀山から納められる銀でした。

日光の社寺（輪王寺大猷院）

## ○石見銀山で活躍した奉行・代官たち

**①大久保長安**　甲州街道（今の東京・山梨間の道）の中でも重要な場所である八王子を拠点に、検地に大きな力を発揮していた長安は、関ヶ原の戦いの後、初代奉行として石見銀山領の支配を任されました。長安はこの他にも、佐渡・伊豆の鉱山支配を任されるなど、鉱山開発に大きな力を発揮しました。

**②井戸平左衛門**　1731（享保16）年、代官として遣わされた井戸平左衛門は、今も「いも代官」として、広く親しまれています。享保の大飢饉といわれる大凶作の年に、自らの財産を投げうち、米を購入したり、幕府の許可を待たずに代官所の米蔵を開いたりして飢えている人々に米を分け与えたといわれています。また、薩摩国（今の鹿児島県）からサツマイモの栽培を導入し、食料とすることで、この地域から1人の餓死者も出さなかったと伝えられています。

**③川崎平右衛門**　多摩郡押立村（今の東京都）で生まれた平右衛門は、治水や栗の木などの育成技術が幕府に認められ、新田開発の仕事を任せられました。その後、功績をあげた平右衛門は、1762（宝暦12）年に代官として石見銀山に遣わされました。銀山の経営に力を尽くしたのみならず、波根湖（久手町）の干拓などに取り組み、米の収穫量も高めました。

## (2) 石見銀山を支える周辺の村々

『銀山旧記』には、この地域に、とてもたくさんの人が住んでいたことが書かれています。その多くが銀山に関わる仕事をしていました。

銀鉱石の採掘や銀製錬のためには、たくさんの鉄製の道具や、間歩の入り口や坑道の崩落を防ぐための材木が大量に必要です。また、銀鉱石から銀を取り出すためには、燃料となるたくさんの木炭も必要です。さらに、たくさんの人が生活していくためには、食料をはじめとした、たくさんの物資が必要でした。こうした物資はどこから供給されたのでしょう。

温泉津港とその周辺

### ○石見銀山とたたら製鉄

江戸時代、中国地方産の鉄は国内流通量の約 90 %を占めていたと考えられており、製鉄業はこの地域の一大産業でした。この豊富な鉄を使って石見銀山で使用される鉄製の道具も作られました。石見銀山で使われた鉄製道具には、山鎚・山箸・鉄子などがあり、これらの鉄製道具が最低でも 1 万本近く使われていたものと思われます。

製鉄で出た鉄滓を再利用した防波堤

大田市内では、仁摩町の達水鉄山所、鳥井町の百済たたらなどがありました。仁摩町宅野には江戸時代に 70 軒以上の鍛冶屋があったそうです。こうした鍛冶屋でつくられた鉄製品は、銀山だけでなく大阪などにも出荷されていました。

達水鉄山所

## ○森林資源を支える御囲村

石見銀山ではたくさんの木材資源が利用されていました。たとえば間歩の入り口に設置される四ツ留といわれる部分や、坑内の崩落を防ぐ留木などには湿気に強く腐りにくい栗の木が使用されました。銀を製錬する過程では、たくさんの木炭が使われました。

これらの木材や木炭の多くは、銀山周辺の農村地帯から供給されていたのです。銀山近隣32の村は御囲村とされ、銀生産に必要な木材や木炭などの諸資材を生産し、供給することを請け負わされていました。

龍源寺間歩の四ツ留

## ○銀の輸送を支える宿駅・助郷村

尾道ルートの銀の輸送にあたっては、江戸幕府が江戸や大阪につながる　街道の重要な地点に設置した宿駅（宿場）や助郷村と呼ばれる村々が、大きな役割を果たしました。

宿駅には、常に人や馬が準備されており、必要に応じて荷物を運ぶ役割を果たしました。しかし、銀の輸送にはたいへん多くの人や馬が必要であり、宿駅に準備されている数だけではとても足りませんでした。その不足分を補ったのが、周辺の村々に幕府が設置した助郷村でした。この制度は、銀の輸送のために重要な制度でしたが、助郷村にとっては大変大きな負担でした。

## ○人々の生活を支える諸物資の供給

江戸時代になり、銀の輸送ルートが海上ルートから中国山地を越える尾道ルートへ変わると、温泉津港は石見銀山で必要な生産・生活のための物資を各地から運び込むための港として活躍しました。温泉津港だけでなく、周辺の港からも石見銀山にたくさんの生活物資が運び込まれていました。こうした諸物資の多くは、銀山町で消費される米でした。

また、発掘調査では、当時、陶磁器生産が盛んであった瀬戸・美濃・信楽・備前・唐津・伊万里や中国産の陶磁器が出土していることから、様々な地域から船や陸路を通してたくさんの物資が供給されていたことがわかります。

## (3) 江戸幕府による石見銀山支配の終わり

江戸時代も後半になると幕府の勢力は徐々に衰え、幕末、明治維新へと向かっていきました。このころ、日本海側の海岸近くに外国の船がやってくるようになり、石見銀山領は、外国船から国を守るための役割も受け持つようになっていきました。

そんな中、幕府を倒し新しい時代をつくろうという運動が、長州（今の山口県）、薩摩（今の鹿児島県）で高まってくると、幕府は長州を倒すように命令を出しました。長州のすぐ近くにあたる石見銀山領も、長州軍の侵入に対する防衛にあたりました。しかし、長州軍の勢力を抑えることはできず、代官所を明け渡すことになりました。こうして江戸幕府の石見銀山支配は終わりを迎えたのです。

### ○長州戦争での戦い

1864（元治元）年８月、長州征伐の命令が幕府から出されると、石見銀山領を守るため、村々の農民も戦いに加わるよう代官所から命令が出されて防衛にあたり、長州軍は 12 月に撤退していきました（第１次長州戦争）。

しかし、長州藩は勢力を整え、再び幕府と決戦することを決意しました。幕府も、こうした長州の動きをみて長州征伐の準備を進めました。当時の石見銀山領の代官鍋田三郎右衛門のもとにも、農民からも強制的に軍資金を集めるように命令が出されています。また、戦いに必要な食料や物資を運ぶための人や馬を出すように命令が出されました。ところが、農民たちはこの命令にほとんど応じようとしませんでした。このことは、代官の力、幕府の力がおとろえてきていたことを示しています。それでも、強制的にかり出された農民たちを含めて戦いの準備は進められました。

薩摩と長州が同盟を結び、いっそう勢力が強まってくると、1866（慶応２）年６月

### 外国船から国を守る

江戸時代の後半、日本海沿岸に外国船が現れるようになり、幕府に交流を求めるようになりました。幕府は、こうした要求を拒否し、外国船に対する海岸での防衛について指示を出しました。石見銀山領でもこれを受けて、代官から海岸沿いの村々に防衛のことについて指示が出されました。外国船の入港に備えて、海岸沿いの４ヶ所（久手・大浦・温泉津・江津市郷田）に、大砲を設置したという記録も残っています。

江戸時代の異国船
（提供:東京都立図書館）

７日、幕府は長州軍に攻撃をしかけ、第２次長州戦争が始まりました。長州軍は、幕府軍を次々と破り、益田は占領されました。驚いた浜田藩は松江、鳥取両藩に援軍を求めました。援軍を得た浜田藩でしたが、長州軍に押され、あっさりと敗れてしまったのです。長州軍は、いよいよ石見銀山領へと進んできました。すると、7月20日夜、代官の鍋田三郎右衛門は、家来と地役人を引き連れ代官所から脱出してしまいました。こうして代官所は長州軍に占領され、幕府の石見銀山支配は終わったのです。

## 豊栄神社

豊栄神社は、もともとは戦国時代に建てられた寺でした。第２次長州戦争がおこり、長州軍が石見に侵入した時、この寺に長州藩が祖とする毛利元就の木像が祭られていたので驚いたといわれています。長州軍は、木像を安置する社の建替えや修復などのために寄付を行いました。この時の長州軍の隊の名や、人々の名前が灯篭に刻まれています。

## 大森代官所の滅亡と百姓一揆

長州戦争に備えて、大きな負担を強いられていた農民たちは、苦しい生活に加えて、代官が脱出したことに大きな不満をもちました。代官が脱出した二日後の7月24日、鳥井で百姓一揆がおこりました。今までの生活に不満をもっていた百姓たちが、地主や大商人に対する怒りを爆発させたのです。

この一揆の集団は、鳥井から静間へ向かい、そこから分かれます。各地で人数を増やしながら主力は長久方面へ向かい、もう一つは五十猛方面へ進んで行きました。長久へ向かった集団は、大田方面から銀山をめざしますが、久利の市原で、代官所を占領した長州軍によって撃退され解散しました。もう一つの集団は、五十猛から宅野、仁万湯里へと進んで行きました。その他に、大田野城・三瓶の上山や小屋原・久手・波根・朝山でも一揆がおこり、長州軍により鎮圧されました。

# ❼石見銀山の町並み

## (1) 石見銀山の町並みと歴史

「石見銀山遺跡とその文化的景観」として世界遺産登録された大森の町は、大森地区と銀山地区の2つに分けられます。大森地区は陣屋町として、銀山地区は鉱山町としてそれぞれ発展していきました。

石見銀山遺跡には特徴のある歴史的な町並みや、16 世紀から 19 世紀にかけての鉱山の人々の生活に関わるたくさんの遺跡があります。この特徴を活かしてまちづくりが進められています。特徴あるそれぞれの町並みを見てみましょう。

### ○鉱山町 銀山

鉱山町とは、鉱山の採掘や製錬の場所を中心として住宅や商店、寺や神社など、鉱山を取り巻くいろいろな人や業種が集まって生活することでできた空間です。銀生産が拡大するとともに、鉱山町も“都市”として発展していきました。

仙ノ山の北側では、16 世紀から 17 世紀にかけて鉱山町が発展し、役所や商家、銀掘など鉱夫達の住居がつくられました。なかには鉱山経営者である山師や商人など、富をたくわえ、趣味として茶の湯をたしなむ人や信仰する寺社に対して寄付をする人もいました。17 世紀には銀鉱山の支配の拠点が銀山地区から大森地区へと移動したことにより、行政や商業の中心は大森地区に移りましたが、鉱山の採掘活動に直接たずさわる労働者などは仙ノ山の山頂や銀山地区に引き続き居住しました。

#### 山師　安原伝兵衛

**江戸時代の初め、石見銀山はシルバーラッシュを迎えました。その中心となったのが、安原伝兵衛の開発した釜屋間歩です。**

**伝兵衛は、一年で 13.5t もの銀を幕府に納めました。この功績により、伝兵衛は 1603（慶長 8）年徳川家康に呼ばれ、「辻が花染丁子文道服」と扇子をもらいました。現在、釜屋間歩周辺には、間歩だけでなく岩盤を加工した製錬施設が残っているなど鉱山町としての繁栄のおもかげを見ることができます。**

←辻が花染丁子文道服※（複製）

↑釜屋間歩の岩盤遺構

現在においても、銀山地区には労働者の住宅地として人工的に形成された平らな土地が千ヶ所以上残っています。石見銀山がもっとも栄えていた頃には、一説には20万人の人々がいたと言われています。

現在、平らな土地を調査すると、製錬(せいれん)した跡(あと)や住宅や道の跡が見つかります。これは、鉱山町に確かに多くの人々が居住していたことを示しています。

## やってみよう!!

### さあ、みなさんも鉱山町「銀山」に見学に行ってみましょう!!

**【佐毘売山(さひめやま)神社】**

鉱山の守り神。精錬の神「金山彦命(かなやまひこのみこと)」を祭る神社。鉱山の守り神としては、全国一といえる規模(きぼ)の神社。もっとも豊かな銀鉱脈(ぎんこうみゃく)の上に建てられたといわれており、参道(さんどう)の階段横にも間歩があります。

（提供:津和野町教育委員会）

**【1640年代の石見銀山の絵図】**

鉱山町が柵(さく)で囲われていることがわかります。山や谷をとおる道に沿って家々があったように見えますが、実際にどのような様子だったのか、まだ多くのなぞに包まれています。

**【下河原吹屋跡(しもかわらふきやあと)】**

発掘調査で、江戸時代に銀製錬などをしていたと考えられる工房跡が見つかった場所です。柱や水路のあったところに、今でも土台の石が残っています。

## (2) 大森代官所と陣屋町大森

江戸時代には、大名が治める領地と幕府が治める幕領（直轄地）とがありました。大名の領地では、城を拠点に役人や商人、町人が地区ごとにわかれて暮らす城下町が整備されました。一方、幕領には幕府の役所である陣屋が設置され、陣屋を中心とした陣屋町が整備されました。陣屋町は港がある港町や寺社がある門前町とは明らかに違った政治的な役割を強くもった町でした。

### ○陣屋町 大森

仙ノ山の麓に広がる約1kmの大森の町並みは、大森代官所（陣屋）を中心とした陣屋町です。17世紀前半、山吹城下にあった陣屋が大森に移転し、陣屋町として発展を遂げました。大森町には、地役人という武士、幕府の御用を請け負う商人、職人などの町人が混在して暮らしていました。陣屋があることや地役人がいたこと、彼らが軒を接してくらしていたことは、天領である陣屋町大森の特徴といえます。

現在も、地役人の住んでいた武家屋敷と、商人や職人など町人の住んでいた町屋とが混在して残っており、当時の様子がよくわかります。そして、徳川家康をまつる東照宮や奉行・代官の墓など、陣屋町を象徴する遺跡も数多く残っています。

### ○大森代官所の役割

大森代官所（現在は石見銀山資料館）

大森代官所は、陣屋と呼ばれる江戸幕府の役所です。陣屋は、行政機能をもつ役所、裁判所、代官やその部下が居住する役宅などの役割をもちます。

大森代官所には、主に二つの仕事がありました。一つは地方御役所で、もう一つは銀山御役所です。地方御役所は、石見銀山領での地域の農政や公事（警察・裁判）などを取り扱う部署です。これらは役人と呼ばれる人が働いていました。銀山御役所は、銀山の支配や石見銀山領内の商・工・漁業の営業税、商品流通に関わる税などを取り扱う部署です。これらは地役人と呼ばれる、銀山に関する専門的な知識や技術をもつ地元の人々が働いていました。

このように、大森代官所は石見銀山の中だけでなく、石見銀山領の役所として、今の大田市全体を含む石見の広い地域を統治していました。

## 人々を救った代官　井戸平左衛門

大森町には、代官をまつった神社があります。それが井戸神社です。井戸神社の額は、勝海舟が書いたことで有名です（石見銀山資料館蔵）。毎年、井戸平左衛門の命日である5月26日には祭りが行われています。祭りの日には、井戸平左衛門の功績をたたえて、芋を供えています。また、大田市内をはじめとするかつて石見銀山領の各地には、井戸代官をたたえた碑がたくさん建っています。みなさんの町にも井戸平左衛門の碑があるか、探してみましょう。

## やってみよう!!

### 大森町へ出かけて、陣屋町の様子を見学してみましょう!!

**【旧河島家】**

代官所地役人の暮らしていた居宅。門をくぐると、式台玄関（大事なお客様を迎えるための玄関）のある主屋が正面に見えます。屋敷の配置や主屋の間取りに、大森の武家屋敷の特徴がみられます。

**【大森の町並み】**

門や庭をもつ武家屋敷、大きな蔵や中庭のある商人の屋敷、2～3軒の家が連なった町屋、寺など、大森の町並みには様々な特徴をもつ建物と暮らしがあります。

**【城上神社】**

大森町の東端にある神社。天井画の「鳴き龍」は志学出身の絵師が描いたものとされています。また天井には神社に寄付をした武家などの家紋が鮮やかに描かれています。

## (3) 港町 温泉津

良好な入り江を持つ小さな港町の温泉津は、2007（平成 19）年「石見銀山遺跡とその文化的景観」の一部として世界遺産に登録されました。

1561（永禄４）年、毛利元就は温泉津を占領し、「温泉津湊」を開きます。この頃、温泉津と石見銀山は一括して政治が行われ、安心して暮らせる生活が保たれていました。温泉津の港に入る船の増加とともに、温泉がある港として「温泉津」の名が定着していきます。江戸時代になると、温泉津は北前船とよばれる商船の寄港地として栄えます。

銀の積み出しや、銀山への必要物資を移し入れる重要な港の温泉街には、旅籠※や商屋、廻船問屋などが立ち並んでいました。港町があり、問屋を中心に町が形成されたことは、港町温泉津の特徴といえます。その風情ある町並みは、重要伝統的建造物群保存地区※に選定されています。

### ○温泉津の問屋

1561（永禄４）年から 1600（慶長５）年の 40 年間、温泉津は毛利氏の銀山経営・石見支配の拠点となり、多くの商人が行き来していました。問屋・小売商が増加し、温泉津の町並みが形づくられていきます。問屋は、全国各地から出入りする船との品物の売り買いを行います。その他、航海に必要な水や食料を供給し、乗組員の宿泊の世話を行って、手数料を受け取っていました。乗組員たちは温泉津の温泉で長旅の疲れをいやしました。この頃、温泉津に水揚げされた物資は、米・炭・酒・たばこ・木材などが記録されています。

1587（天正 15）年、丹後国田辺城主の細川幽斎は温泉津に行った際、温泉津の問屋衆に歓迎され、恵珖寺で「連歌会」を開きました。この連歌会には、油屋妙珍などの問屋が 18 人出席しました。

### ○北前船の活躍した時代

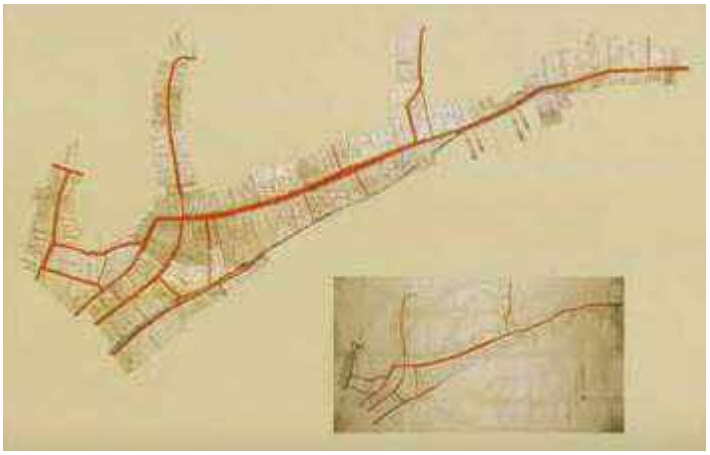
1672（寛文 12）年、商人の河村瑞賢は日本海を北海道から西にまわり、下関を経由して、瀬戸内海から大阪に至る「西廻り航路」を開きます。その寄港地の一つとして温泉津を指定しました。この航路の商船を宝暦（1751 ～ 64 年）の頃から、「北前船」と呼ぶようになります。北前船は、各地の特産品を買って船に積み、寄港地で商売をしました。そのため、温泉津の町には、北海道から北陸、瀬戸内、大阪の物産がたくさん入り、物流が発達しました。

また、温泉津は、北前船の寄港地であるとともに天和年間（1681 ～ 84 年）には石見銀山領西部 55 か村の年貢米の積出港となるほか、北陸・山陰地方の幕府の備蓄米を積んだ船の入港がありました。

文政年間（1818～1830年）になると、問屋の扱う商品の中に「刻煙草・白砂糖・肥後茶・布海苔※」など当時の高級品がみられ、温泉津や近隣の人々の生活が豊かになった様子がうかがえます。

## やってみよう!!

**みなさんも、温泉津を訪れてみましょう。今でも港町の様子を残し、当時の港町の繁栄を見ることができます。**



**【江戸時代の温泉津の絵図】** 港を起点に町並みが広がっています。現在とほとんど変わらない町の様子がわかります。

**【現在の温泉津の港と町並み】**
旅籠や問屋など江戸時代の特徴を残す建物や、近代的な建物のつくりの温泉など、港町・温泉街として繁栄した温泉津の歴史を見ることができます。

**【廻船問屋墓地（油屋妙珍）】**
屋根を持つ大きな墓です。江戸時代に大きな経済力をもった廻船問屋の間には、このような特徴的な墓をつくる習慣がありました。温泉津に有力な廻船問屋のいた証拠といえます。

# 8 これからの石見銀山とまちづくり

## (1) 現代につながる石見銀山の暮らし

これまでみてきたように、江戸時代、石見銀山は江戸幕府の直轄地でした。大森に陣屋がおかれ、政治・経済の中心地となり発展していきました。

明治時代になると、石見銀山領は大森県となり、大森は県庁所在地になりました。大森代官所の建物は大森県庁となり、大森町には裁判所や税務署などがつくられます。その後、大森代官所の建物は邇摩郡役所として利用されていきました。

旧大森区裁判所（今の町並み交流センター）

1922（大正 11）年には郡制が廃止され、政治の中心ではなくなりましが、陣屋町とともに発展をとげた店や家々は残ります。大森町は人々が暮らす町であり続け、現在につながるのです。石見銀山遺跡の文化的景観は、地元の人々の努力により大切に育まれ、守り伝えてきたものなのです。

### ○石見銀山遺跡のあゆみ

大田市大森町には、町内の全ての人々が加入する「大森町文化財保存会」があります。保存会は 1957（昭和 32）年に大田市との合併を契機に結成され、遺跡の保存、保護を中心に活動を行っています。また、1969（昭和 44）年に石見銀山遺跡が国史跡に指定されると、大森小学校の全校児童による「石見銀山遺跡愛護少年団」が結成されました。さらに、1976（昭和 51）年には地元の熱意により、解体が予定されていた旧邇摩郡役所（元大森代官所）の建物が大森観光開発協会に無償で払い下げられ、石見銀山の資料の保存、調査、研究の拠点として石見銀山資料館が整備されました。

石見銀山遺跡愛護少年団の活動
大森の町や史跡の美化に努めたり、史跡に関した勉強会を行ったりしている

このような文化財を守る活動の中で、1987（昭和 62）年には大森町の 2.8km の町並みが国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。

その後、2004（平成 16）年に温泉津の町並みも重要伝統的建造物群保存地区に選定

されたほか、山城跡や街道、港湾集落も国史跡に追加指定されるなど、着々と遺跡の保護が進められ、2007（平成 19）年に「石見銀山遺跡とその文化的景観」として世界遺産リストに記載されました。

清掃活動の様子

## ○周辺地域の文化的景観

石見銀山は銀山のみで成り立つものではなく、食料や製錬用の薪炭、坑道の補強のための木材の調達など、周辺地域との関わりがあって初めて成り立つものでした。そして、こうした地域にも人間と自然が織りなす文化的景観が色濃く残されています。

ヨズクハデづくり（温泉津小学校）

大田市温泉津町の西田地区には、往時の宿場町となだらかな棚田がつくりあげる豊かな田園風景が残されています。西田地区では、薬とされていた無名異や温泉津の名産品である殿島海苔とともに「お三ツ様」といわれ、幕府の将軍への献上品となった西田葛が生産されていました。また、現在では、ヨズクハデが秋を飾る風物詩となっています。このヨズクハデは稲を掛けた様子が「ヨズク（フクロウの方言）」に似ていることからこのように呼ばれており、使用する木材が少なくてすむうえに、風にも強い優れものです。かつては温泉津・上村や福波・市でも行われていましたが、現在では西田地区にだけ継承され、地域の人々の努力により保存されています。

また、鞆ケ浦・馬路地区の祭礼では、鵜島厳島神社から馬路地区へ白銀神輿を運んで、馬路地区から鞆ケ浦へ練り歩き、神事が行われていました。さらに馬路地区の盆踊りの口説きには、銀山に関わる伝承も残されています。このように、銀山の積み出し港として繁栄したことのわかる風習が、現在まで行われてきています。

## (2) 危機にさらされる世界遺産

石見銀山遺跡では、世界遺産登録によって多くの観光客が訪れるようになりましたが、渋滞や混雑、騒音など地元の人々には困った状況も生まれました。世界遺産に登録された喜びの一方で、様々なトラブルが発生したのです。世界遺産の町で暮らす人々は、そのようなトラブルとどう向き合ったのでしょうか。

### ○世界遺産のもたらすもの

石見銀山遺跡では、世界遺産登録当初、多くの観光客が押し寄せました。それまで走っていた路線バスの本数を増やして、観光客を乗せました。観光客は短い時間で龍源寺間歩の観光ができましたが、住民が利用できなくなったり、排気ガスがたくさん出たりと、生活している人にとっては住む環境に影響もでてきました。

そこで、地元の人たちや行政が一緒になって考えたことが“歩く観光”と「パーク＆ライド」方式です。石見銀山公園から龍源寺間歩までの観光バスの運行を中止したのです。観光客だけでなく、地元の人も、生活に便利だったバスが使えなくなります。それでもバスをなくすことで、日常生活と観光を両立しようとしたのです。

**やってみよう!!**

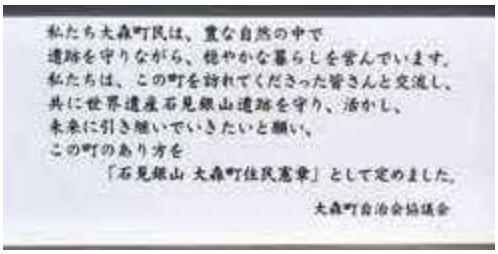
**石見銀山遺跡では、龍源寺間歩と大森の町並みの間を走っていた路線バスの運行をやめたために、観光客は、世界遺産センターに駐車して、バスで石見銀山公園まで行き、そこから徒歩か自転車で、龍源寺間歩や町並みを観光することになりました。石見銀山公園から龍源寺間歩までは約 2.5km。タクシーなども通れません。**

観光客に配布されている石見銀山を案内する地図

**この取り組みをあなたはどう思いますか？観光客にとってはどうでしょう？住んでいる人たちにとってはどうでしょう？自分で考えたことをもとに、友達と話し合ってみましょう。**

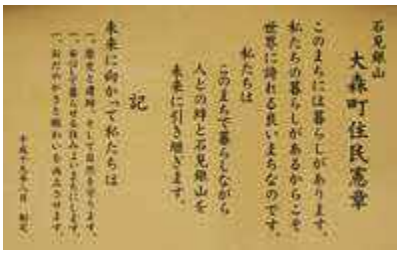
## やってみよう!!

平成19年に大森町自治会協議会によって作られた住民憲章です。世界遺産に住む大森の人々の、どんな思いが込められているでしょう。



私たち大森町民は、豊かな自然の中で
遺跡を守りながら、穏やかな暮らしを営んでいます。
私たちは、この町を訪れてくださった皆さんと交流し、
共に世界遺産石見銀山遺跡を守り、活かし、
未来に引き継いでいきたいと願い、
この町のあり方を
「石見銀山 大森町住民憲章」として定めました。

大森町自治会協議会



石見銀山
大森町住民憲章

このまちには暮らしがあります。
私たちの暮らしがあるからこそ、
世界に誇れる良いまちなのです。
私たちは
このまちで暮らしながら
人と人の絆と石見銀山を
未来に引き継ぎます。

記

未来に向かって私たちは
一、歴史と遺跡、そして自然を守ります。
一、安心して暮らせる住みよいまちにします。
一、おだやかさと明るい心を育てます。

平成十九年八月 制定

## ○世界遺産になったら、ずっと世界遺産のままですか？

保存状態が悪くなるなど、世界遺産委員会が定めた規準を満たさなくなった世界遺産は「危機遺産リスト」に加えられます。そのような世界遺産が、2023年現在で56もあるのです。問題が改善すればリストから外されますが、改善されなければ世界遺産でなくなってしまうのです。石見銀山遺跡のような文化遺産では、次のようなことで遺産が影響を受けると、「潜在的危機」として危機遺産リストに登録されることになります。

①保護のための法律が後退する　②保存政策が後退する
③新しく景観を変えるような計画が実行される
④戦争によって破壊される
⑤環境が変化する

橋をかける前のエルベ渓谷

ドイツのドレスデンにあるエルベ渓谷では、橋の建設計画が実行され、③に当たるということで「世界遺産としての顕著で普遍的な価値は認められない」ということになり、登録が取り消されました。

生活に便利な橋をつくるのか、世界遺産としての景観を守るためにがまんするのか、それは、住んでいる私たちが未来を見据えて考えることなのです。

## (3) 自然とともに生きる

石見銀山が世界遺産に登録されるときに重要視された意見があります。鉱山であったにも関わらず、山には遺跡とともに自然が残り、また、今も人々の生活がある風景がすばらしいと評価されたのです。

しかし、自然と共に生きるのは大変です。生活に必要な最低限の草刈りをするだけでなく、山は草を刈ったり（下草刈り）、木を切ったり（間伐）して手入れしないといけません。せっかくの遺跡が、自然によって壊されたりしないように、人間が働きかけていくことが必要です。もちろん、自然を壊さないように配慮しながら、お互いに良いバランスをとることが大切です。

### やってみよう!!

**二つの写真を比べてみましょう。どんなことがわかりますか？**

**永久製錬所（仁摩町柑子谷）**

大正時代（約100年前）

現代（平成26年時点）

## ○銀山地区の植生の歴史

石見銀山の中心である銀山地区（銀山柵内）では、開発の歴史とともに、山の木々も変化していきました。

### 鉱山開発開始前（古代～戦国時代）

カシの仲間などの常緑広葉樹が多く生えていました。

カシ

### 鉱山開発期（戦国時代～江戸時代）

コナラ、クヌギなどの夏緑広葉樹林やマツ林でした。居住地、草地、空き地、耕作地も広がっていました。

マツ

### 鉱山採掘衰退期（明治時代）

スギ（植林）、竹林が広がり始めました。また、町の外側や山の斜面には、耕作地が広がっていました。

### 現在

耕作地が放棄され、山には竹が広がっています。

広がった現代の竹林

### 石見銀山遺跡の木材調達と森林管理

石見銀山遺跡では、自然と共生するための取組が行われてきました。

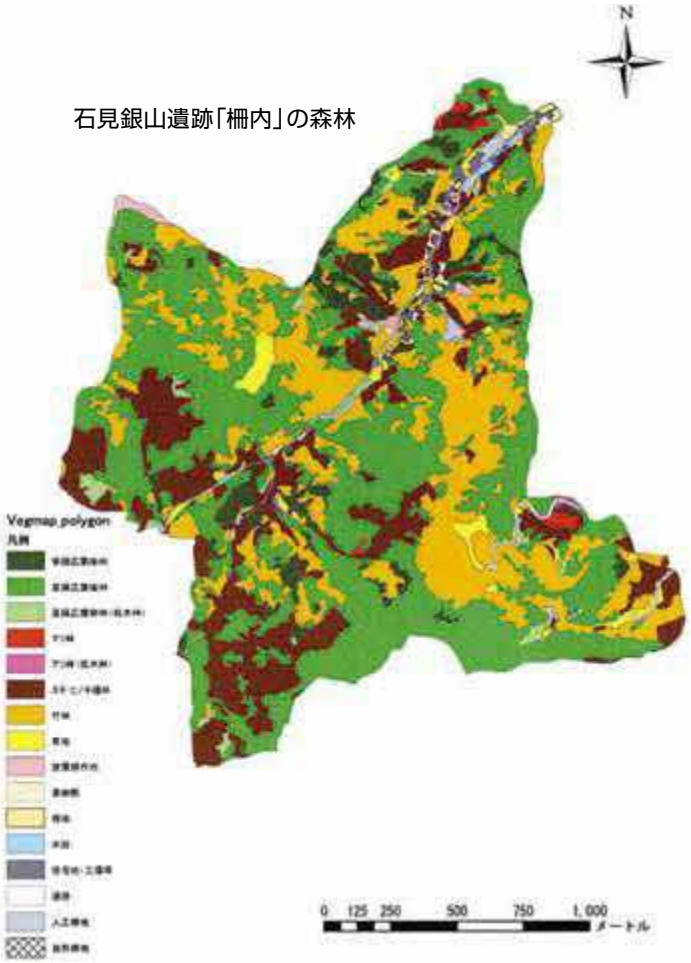
- 江戸時代に、栗の木の植林の記録があります。苗木を植えて大きくし、坑道の留め木に使っていました。
- 灰吹法では灰吹炉に蓋をする渡木という木材に、ツバキなどの生木を使っています。製錬で使う炭は、時代によっては忍原村など６つの村を炭方六ヶ村に指定し、そこから調達されました。

島根県立三瓶自然館　井上 雅仁さん

## (4) 石見銀山遺跡の景観を守る

石見銀山遺跡で、今問題になっているのが、「竹」です。

以前は、タケノコを食べたり生活や銀山での仕事に必要な道具を作ったり様々なものに利用するため、竹を植えて管理していました。しかし人間が手入れをしなくなると、竹は勝手に成長してどんどん広がってしまいます。放置された竹が山を覆(おお)ってしまい、遺跡を見えなくしたり壊したりしています。



石見銀山遺跡「柵内」の森林

### ○石見銀山遺跡を守るために、どんな活動が行われているのでしょう

竹の有効活用をすすめ、遺跡と景観を守ろうと活動している人々もいます。小中学校、高校や国内外の人と協力して活動を進めています。一人の力や一つの団体で広大な遺跡のエリアの森林整備(しんりんせいび)をすることは不可能ですが、こうした活動を続けてアピールしていくことで、国内外の人々や企業からの協力を得られるようになってきています。

島根中央高校の活動

## NPO緑と水の連絡会議の取組

石見銀山で銀や銅の採掘が行われて、多くの人が暮らしていた時代は、人々は住居や畑あるいは食糧や薪をとるために、山の隅々まで利用していました。その後、多くの食糧や資材を輸入に頼るようになると、地元の山を利用しなくなり、手入れをしなくなった山には竹が広がりました。

竹が増えすぎると遺跡が隠れてしまい、近づくこともできなくなります。こうした状況を避けるために、定期的に竹の伐採をして遺跡が見える環境を維持していかなければなりません。タケノコの段階でとって食べるのも効果があります。

私たちは、市民のみなさんや小・中・高校生や国際ボランティアとともに、石見銀山の景観を守るために竹の伐採を行ってきました。竹の有効活用方法も工夫し、竹の杖、竹の紙、破砕したチップの利用などを試みてきました。山の資源を積極的に使い、里山の自然を生かしながら生活してきた先人の歴史に学ぶことも、世界遺産学習の学びのひとつと考えています。

NPO 緑と水の連絡会議 事務局長　和田 譲二さん

## やってみよう!!

### 景観を守り、わかりやすく伝えるためにはどうしたらいいでしょう。

56 ページで紹介した、仁摩町大国の柑子谷です。大正時代までは、工場の建物が建ち並ぶ地域でした。この地域を、自然を生かしながら観光に来た人たちにもわかりやすい景観にするには、どうしたらいいでしょう。右の空欄に、絵を描いたり説明したりしてみましょう。

## (5) 石見銀山を伝える

石見銀山遺跡は、一目ではわかりにくく、勉強して初めてその価値がわかる世界遺産だと言われます。観光に来た人には、説明を聞かないと良さが伝わりにくいともいわれます。そこで、石見銀山遺跡の良さを知ってもらい、観光に来た人たちに知ってもらう活動をしている人たちがいます。官民協働といいますが、そこに住み生活している人たちと行政の人たちが一緒になって盛り立てようとしています。

### 大森観光開発協会の取組

大森観光開発協会は、1966（昭和 41）年に発足されました。『石見銀山の町、大森で聞いたこと』の中で、観光開発協会の河村政経さんは次のようにお話されています。

- 大森観光開発協会は、「先人の残した遺跡をもとにお客さんにきてもらって、町を維持していくようにしなければ」と考えて創立した。
- 1972（昭和 47）年、お食事処おおもり会館を開館。観光客に昼食を提供したいとの考えからだった。建物は、古い物を生かそうと考え、新築ではなく熊谷家の酒蔵を移築した。
- 石見銀山資料館の開館 1976（昭和 51）年。1902（明治 35）年に郡役所として、代官所跡地に建てられ、一時期保育園として使われていたものを改修した。

最初は、大森観光開発協会の資料館部会として発足した。銭がないから地元の大工さん連れて出雲や松江、山口県須佐に出かけ、つくりたい陳列ケースを見てもらった。ガラスは温泉津に注文して手作りでつくった。（出典：『石見銀山の町 大森で聞いたこと』）

### やってみよう!!

観光客が、石見銀山のことを知ろうと思って立ち寄る施設が二つあります。石見銀山資料館は地元大森の人たちが中心になって作りました。世界遺産センターは大田市が主体となってつくり、石見銀山の調査研究や遺跡の案内をしている施設です。ホームページを開いてみましょう。

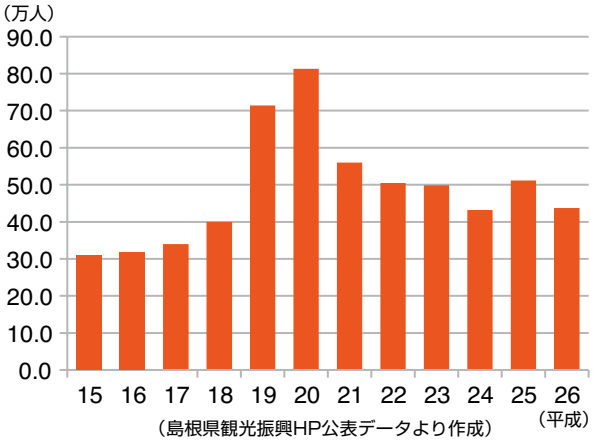
- いも代官ミュージアム（石見銀山資料館） https://igmuseum.jp/
- 石見銀山世界遺産センター https://ginzan.city.oda.lg.jp/

## やってみよう!!

### グラフを見てどんなことがわかりますか？

どのような変化が起こっているのでしょう？　その理由も考えてみましょう。

石見銀山遺跡観光客入込数の推移




（島根県観光振興HP公表データより作成）

| 平成 | 人数（万人） | 備　考 |
|---|---|---|
| 15年 | 31.0 | |
| 16年 | 31.8 | |
| 17年 | 34.0 | |
| 18年 | 40.0 | |
| 19年 | 71.4 | 世界遺産登録 |
| 20年 | 81.3 | |
| 21年 | 56.0 | |
| 22年 | 50.5 | |
| 23年 | 49.9 | |
| 24年 | 43.2 | |
| 25年 | 51.2 | 出雲大社遷宮 |
| 26年 | 43.7 | |

## 石見銀山ガイドの会の取組

石見銀山遺跡を知ってもらおうと、ガイドとして活動している人たちがいます。石見銀山ガイドの会の人たちです。石見銀山ガイドの会は平成 12 年 1 月、地元の有志によって結成され、研修を重ねながら、ガイドとしての活動を続けています。ガイドの会の人たちは、どんな思いで活動しておられるのでしょうか。

- 世界遺産としての歴史的な価値や魅力、平和と相互理解の世界遺産の登録という意義（いぎ）を訪れる人に伝えたいという想いで、ガイドをしています。
- 地域の人と一緒に遺跡を守っていきたいと活動しています。
- 小中学生のみなさんが世界遺産や石見銀山遺跡を学ぶことは、自分とは違う人の思いや、違う歴史や文化を知ること（相互理解）です。
- みなさんたちのように石見銀山遺跡を学ぶ人には、石見銀山遺跡のことを自分の言葉で伝えてほしい。石見銀山遺跡と銀山を訪れる人の、つなぎ手になってほしいです。自分のわかったことを、自分の言葉で身近な人やお客さんに伝えて、一緒に石見銀山を歩いて下さい。

石見銀山ガイドの会会長　安立　聖さん

## (6) まちづくり

石見銀山遺跡の良さを伝える相手は、観光に訪(おとず)れた人たちだけではありません。地元に住む私たち自身が理解し、後世の人たちに伝えていく必要があります。そのため、石見銀山遺跡を活かしたまちづくりを考え、活動している人たちがいます。

また、私たちが暮らす大田市では、世界遺産条約を定めたユネスコの精神に基(もと)づいて、「大田市人権尊重(じんけんそんちょう)のまちづくり条例(じょうれい)」を定め、まちづくりに取り組もうとしています。

### ○官民協働の取組

2005（平成 17）年、世界遺産登録を目指している石見銀山遺跡を守り、遺跡を活かした活動を進めようと、行政と、公募(こうぼ)による約 200 名の市民プランナーによる「石見銀山協働会議(いわみぎんざんきょうどうかいぎ)」が設立されました。

石見銀山協働会議の様子

行政と市民の話し合いの結果として、遺跡と自然と人の暮(く)らしの調和をめざす「石見銀山行動計画」の策定や、石見銀山遺跡の保全活用活動のための募金活動、それによる「石見銀山基金」の積(つ)み立(た)てなどが行われていきます。この石見銀山基金を活用した保全活用事業を推進(すいしん)していくためには、協働会議そのものが組織として自立する必要があるとの考えから、2010（平成 22）年、「ＮＰＯ法人石見銀山協働会議」となりました。行政と市民が連携したこのような活動は、世界遺産をもつ町の中では先駆的なものでした。

#### 石見銀山基金による活動支援

**石見銀山基金では、次のような活動を支援しています。**

- **遺跡の維持・保全活動**
- **文化財等の修理・修景活動**
- **情報発信活動**
- **調査・研究活動**
- **伝統文化の保存・振興活動**

「石見銀山協働会議 HP」より（要約）

**みなさんが銀山学習に出かけるためのバス代金なども、実は石見銀山基金が利用されています。みなさんのような次の世代を担う人たちに、石見銀山遺跡のことを知ってもらい、遺跡の保全や情報発信活動に関心をもってもらいたいという願いからです。**

## ○人権のまちづくり

大田市では、2014（平成 26）年 6 月に「大田市人権尊重のまちづくり条例」を定めました。石見銀山遺跡を守り伝える活動を積み重ねる中で、「何のために世界遺産を守らなければならないのか」、「なぜ後世に伝えていかなければいけないのか」を、ユネスコの精神に基づいて考えてきました。その結果、制定されたのが、この条例です。

ユネスコは、あらゆる差別無く、人権及び基本的自由を尊重する営みを通して、平和及び安全に貢献することを目的としています。その目的を達成するために、「石見銀山遺跡とその文化的景観」も、世界遺産に登録されたのです。私たちが石見銀山遺跡を守り伝える活動をすることは、人権尊重のまちづくりをすることと同じなのです。

### ユネスコのめざすもの

ユネスコは、教育、科学及び文化などの活動を通じて、世界平和を実現するために作られました。

「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」。これは、ユネスコ憲章前文の冒頭を飾る有名な言葉です。この言葉からも、ユネスコが、教育、科学、文化など私たちに身近な分野を通して、人の心に平和の砦を築き、世界の平和を実現しようとしていることがわかります。

### やってみよう!!

**「大田市人権尊重のまちづくり条例」前文を読んでみましょう。**

「石見銀山遺跡とその文化的景観」を世界遺産に登録したユネスコは、あらゆる差別無く、人権及び基本的自由を尊重する営みを通して、平和及び安全に貢献することを目的にしている。世界遺産を有する大田市として、このユネスコ精神に基づき、人権尊重・差別撤廃の営みを積み重ね、ぬくもりのあるまちづくりを目指して、市民あげて取り組むことを決意し、平成 20 年 9 月 12 日、人権都市を宣言した。

そこで、世界人権宣言及び日本国憲法の理念並びに本市の人権尊重都市宣言の趣旨にのっとり、一人ひとりの人権が尊重され、心豊かに誇りをもって暮らし、共生の社会となる大田市を築くため，ここにこの条例を制定する。（抜粋）

- 大田市の HP をひらいて、人権尊重のまちづくり条例を調べてみましょう。
  https://www.city.oda.lg.jp/ohda_city/city_organization/25/26/324/2020
- 人権尊重のまちづくりのために、私たちが出来ることは何でしょう。話し合ってみましょう。

# 参考となる図書

## 詳しく調べたいときに参考となる「石見銀山学ことはじめ」です。

★『石見銀山学ことはじめ』（大田市教育委員会編／2018年～　続刊）
市民参加で作成する石見銀山の「一般向け教科書」です。石見銀山の多様な価値を、キーワードをもとに読みやすくまとめています。

★『別冊太陽　石見銀山～世界史に刻まれた日本の産業遺跡』（田中琢／監修　平凡社　2007年）
大航海時代に石見銀山の果たした役割、採掘と製錬技術、町と暮らし、銀山街道など、石見銀山全体にかかわる物事が書かれています。写真や図も多く、眺めるだけでも楽しい図書です。

★『石見銀山～鉱山遺跡と自然～』（三瓶フィールドミュージアム財団／編集・出版　2007年）
平成19年度、三瓶自然館の春の企画展の解説書。火山噴出物できた仙ノ山の鉱床形成のメカニズムや、福石鉱床と永久鉱床の違いを、図や写真を使ってわかりやすく解説しています。採掘・製錬のほか、大久保間歩のコウモリについてもふれています。

★『貨幣の日本史』朝日選書574（東野治之／著　朝日新聞社　1997年）
古代から明治まで、貨幣の歴史を通じて、日本の歴史を読み解こうとします。戦国時代末期から江戸時代初期、日本銀がどのように世界の経済・文化の交流に貢献したか、そのしくみについてもふれています。

★『日本の世界遺産20　石見銀山』大航海時代と石見銀山（岡美穂子／著　朝日新聞出版　2012年）
15世紀末から16世紀、新世界の支配権をめぐって海洋国スペインとポルトガルがしのぎを削っていました。なぜポルトガルが銀を求めて日本をめざし、その銀を使ってアジアで何をしようとしたのか、最新の研究成果をわかりやすく紹介しています。

★『石見銀山～いも代官井戸平左衛門の事績～』（仲野義文／監修　大田市外2町広域行政組合／発行　2003年）
井戸平左衛門の生涯、代官としての飢饉対策、サツマイモ栽培にも紙数をさいています。大田市内の頌徳碑の数、場所、建設年代を記した一覧表や、代官所の平面図ものっています。内容はやや難しめな小冊子。

★『銀山街道ガイドブック～銀山街道鞆ケ浦道・銀山街道温泉津沖泊道～』
（多田房明／監修　大田市外2町広域行政組合／発行　2005年）
鞆ケ浦道と温泉津・沖泊道を経路とともに、沿線に残る遺跡、石造物、民間伝承などを詳しく紹介しています。街道のほか、大森・温泉津の町並み、鞆や沖泊集落についても説明。文章がやさしく、写真や図も多いです。

★『町並み保存のネットワーク』
（全国伝統的建造物群保存地区協議会／監修　第一法規／発行　1987年）
重要伝統的建造物群に選定された全国の町並みが収録されています。この中には大森の町並みも記載されており、町並みの形式と推移、特徴、現状などがわかりやすくまとめられています。

もっと調べものがしたいと思ったら、「石見銀山を学ぶための図書～大田市立図書館の蔵書から～」をみて、図書館でいろいろな図書を手にとってみましょう。

# 用語解説

本文中に出てくる用語について説明しています。



## 【ユネスコ】（6 ページ）

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization（国際連合教育科学文化機関）の頭文字をとって UNESCO と呼んでいます。教育や科学、文化を通じて、国や人種、言語や宗教に関わりなく世界のあらゆる人々の人権や基本的自由を守ることを目的とした国際組織です。世界遺産の決定だけでなく、子どもの教育や、図書や芸術の振興など知的活動の交流や促進のための事業をしています。

## 【ユネスコ憲章】（6 ページ）

ユネスコが何を目的として、どのような活動をしていくかの指針を示したものです。

## 【無形文化遺産】（6 ページ）

ユネスコが行っている事業の一つ。慣習や描写、表現など無形の文化伝統を遺産として保護し、継承していこうという取り組みです。日本では島根県の「佐陀神能」や「和紙（当初は「石州半紙」で登録されましたが、のちに美濃紙と細川紙も追加され、名称が変更されました）」のほか、和食や歌舞伎などが登録されています。そのほか、中国の京劇やスペインのフラメンコなども無形文化遺産に登録されています。

また、近年では、古文書や絵画などをデジタル技術で保存・公開していこうとする「世界記憶遺産（Memory of the World）にも力がいれられており、数が増えてきています。

## 【危機遺産】（7 ページ）

ユネスコ世界遺産に登録されているもののうち、戦争や災害などで世界遺産の価値を損なうような脅威にさらされているものです。危機遺産リストに記載され、危機が排除できれば危機遺産ではなくなります。危機遺産リストに記載されると、その危機遺産を守るために、国際的な支援や資金援助の対象となります。現在では、紛争が続いているシリアのパルミラなどが危機遺産となっています。

## 【負の世界遺産】（7 ページ）

ユネスコが定めた種類ではなく、日本国内で使われている世界遺産の考え方のことです。世界遺産登録のための登録基準に「⑥歴史上の出来事や現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と直接あるいは明白な関連があること」が適用されており、登録理由

の中に戦争や人権侵害の歴史への反省や戒めが書かれているものを、日本では負の世界遺産と呼ぶことがあります。負の世界遺産と呼ばれるものの中には、広島の原爆ドームのほか、奴隷貿易の歴史をもつセネガルのゴレ島や、過酷な強制労働をかしたボリビアのポトシ銀山があります。

**【鉱床】**（14ページ）
人類にとって有用な元素や鉱物などの資源が、採掘して利益が得られるほどに濃密に集まっている地質のこと。この鉱床をもち、採掘が行われる場所を鉱山と呼びます。

**【鉱脈】**（14ページ）
マグマなどの作用によって、鉱物などが岩盤の割れ目にしみこんでできた板状の鉱床のこと。

**【福石鉱床】**（15ページ）
石見銀山遺跡の中でも、釜屋間歩などがある本谷を中心とした範囲に広がっているとされる鉱床。自然銀を多く含み、製錬しやすいため、石見銀山の開発が始まった早い段階の頃は福石鉱床から採掘が進められたのでは、という説が現在は有力です。

**【永久鉱床】**（15ページ）
龍源寺間歩などがある出土谷から柑子谷に広がるとされる鉱床。銀鉱石の中には銅が含まれており、製錬の過程で銀と銅をわける必要がありました。

**【製錬】**（16ページ）
鉱石から必要としている金属を、還元などの科学反応を利用して取り出す過程のこと。

**【灰吹法】**（16ページ）
灰を敷きつめた炉を用いて精錬を行う方法です。炉に敷きつめた灰の上に、銀と鉛の合金である「貴鉛」を置き、木炭で加熱して溶かします。温度が上昇すると「貴鉛」は溶けはじめ、鉛は空気中の酸素と結びつくことで表面張力が小さくなり、灰に染みこんでいきます。一方、銀は灰に染みこまずに炉の上に残ります。

**【貴鉛】**（16ページ）
細かくくだいた銀鉱石に鉛を加え溶かして作られる、銀と鉛の合金です。銀は鉛と結びつきやすい性質を利用し、銀鉱石に含まれる様々な不純物と銀を分けるために鉛が利用されました。

## 【還元】（17 ページ）

酸素と結合している元素から、酸素を取り除く工程のことです。自然界にある鉄や銀は、酸素とふれあって結びついた「酸化」という状態になっていることがほとんどです。酸化鉄や酸化銀のままでは有用性が低いため、酸化状態でなくすために加熱するなどして酸素を除去することを還元といいます。

## 【石見銀山の発見年】（18 ページ）

これまでは、1526（大永６）年とされていましたが、最新の研究により、今では 1527（大永７）年と考えられています。

## 【守護大名】（18 ページ）

室町時代、室町幕府によって国ごとに配置された武士のこと。室町幕府の命令を伝えたり、政治や軍事の指揮などを担っていました。幕府の命令を受ける一方で、個別の主従関係ももっていたことから、その地域での支配力を次第に強めていきました。

## 【勘合貿易】（18 ページ）

「勘合」とは、14 世紀の中国（明）の皇帝が、日本やベトナムなどの国王（日本の場合は室町幕府の足利将軍）に与えた、貢物を運ぶ船の渡来証明書のこと。この勘合をもっている船だけが、当時の中国との正式な交易を許されていました。

## 【鼻ぐり岩】（22 ページ）

船を港などにつなぎとめるために、岩盤や岸壁をくりぬいてつくった突起物のこと。陸地でも、牛馬を一時的につなぎとめるために、岩を置いたりくりぬいたりしているものがみられます。

## 【銀座】（23 ページ）

江戸や京都などに設置された、貨幣を鋳造･発行するための機関です。「銀座」という名称が、そのまま地名として残っている場所もあります。

## 【香辛料】（26 ページ）

植物の果実や種子、果皮、花、茎、葉などの中で、独特の香りや味、色みをもつもの。食べ物の味付けや着色、消臭などに使われます。コショウや、カレーに使うターメリックやクミン、ハンバーグに使うナツメグなどが有名です。14 ～ 16 世紀、香辛料は産出地が限られており、イスラム商人を介して交易がされていたため、とても高価で貴重でした。

**【倭寇】**（28 ページ）
13 ～ 16 世紀にかけて、日本や中国、朝鮮半島の沿岸で活動していた海賊です。倭寇と呼ばれる人たちは、当初は日本人が中心でしたが、のちに中国人やポルトガル人なども含まれるようになり、さまざまな出身地の人が混在します。倭寇は港町や船を襲撃する一方で、中国やポルトガルと密貿易を行うことで、文物の交流を促した一面ももちます。

**【じゃこう】**（30 ページ）
「麝香」。ジャコウジカという鹿の腹部にあるジャコウ腺（香嚢）の分泌物を乾燥させたもので、お香や薬の原料として重宝されました。ジャコウジカが絶滅の危機に瀕したため、現在はワシントン条約によってじゃこうの国際取引が禁止されています。

**【生糸】**（30 ページ）
英語では「raw silk」。蚕の繭からとった天然の繊維です。繭糸を数本まとめて一本の束にしたものを、生糸として取引します。この生糸から、タンパク質などを取り除く作業を経たものが絹糸です。

**【修道院】**（32 ページ）
キリスト教の規律を守り、祈りと労働奉仕を自らに課しながら生活をする人々が、集団生活をする施設です。この人たちのことを修道士・修道女（ブラザー・シスター）などと呼びます。

**【硝石】**（35 ページ）
硝酸カリウムという化合物。火縄銃などに使う黒色火薬の原料として使われました。日本などの湿潤な地域では採れないため、南アジア産のものなどを中国や東南アジア経由で輸入していました。

**【福田衣】**（36 ページ）
僧侶が着る袈裟と呼ばれる、着物のことです。

**【陣羽織】**（36 ページ）
丈の短い着物の一種である「羽織」で、戦国時代の武将が、戦の陣中で鎧の上から羽織ったことから「陣羽織」という呼び方ができました。

**【矢違いのお守り】**（36 ページ）
戦のとき、矢が当たらないようにという祈りをこめたお守りのことです。版木をつかって

紙（護符）などに刷(す)られました。戦国時代だけでなく、第二次世界大戦のときも、戦地(せんち)へ出征(しゅっせい)する人たちに持たせたといわれています。

**【手附(てつき)・手代(てだい)】**（40 ページ）
代官とともに陣屋(じんや)で政務(せいむ)にあたった役人です。

**【辻(つじ)が花染(はなぞめ)丁子文道服(ちょうじもんどうふく)（複製）】**（46 ページ）
「道服」とは、僧侶や身分の高い官僚などが、主に屋敷内などで着ていた羽織のことです。また、「丁子」は香辛料のクローブのことで、江戸時代に流行していた文様です。安原伝兵衛が徳川家康から贈られた辻が花染丁子文道服は、大森町にある清水寺に保管されていました。より良い状態で継承していくため、現在は京都国立博物館に預けられています。この道服は、当時の染色技術や石見銀山の歴史を語る貴重な資料でもあるため、大田市では所有者の了解を得て作製した複製品を、石見銀山世界遺産センターで定期的に公開しています。

**【旅籠(はたご)】**（50 ページ）
旅客に食事を提供(ていきょう)する宿屋(やどや)のことです。

**【重要伝統的建造物群保存地区(じゅうようでんとうてきけんぞうぶつぐんほぞんちく)】**（50 ページ）
日本の文化財保護法に定める文化財分類のひとつです。城下町・宿場町・港町・農村・漁村など歴史的な町並みや集落を保存するため、市町村が条例などで決定した伝統的建造物群保存地区の中で、市町村の申し出を受けて、国が特に価値が高いものとして選定した保存地区のことをいいます。大田市では、大森の町並み、温泉津の町並みが重要伝統的建造物群保存地区として国の選定を受けています。島根県内では、津和野の町並みが同じく国の選定を受けています。

**【布海苔(ふのり)】**（51 ページ）
紅色の海藻(かいそう)。現代では、サラダや刺身のつまなどによく利用されます。

# 石見銀山での主なできごと

**1309年　石見銀山の最初の発見（伝承）**
1338年　室町幕府の成立

1434年　佐毘売山神社、益田から石見銀山へ勧請される
1492年　コロンブスがアメリカ大陸に到着

**1527年　神屋寿禎が石見銀山を発見、開発開始**
1533年　灰吹法が石見銀山に伝わる
1537年　尼子晴久、銀山を支配する
1539年　大内義隆、銀山を奪回する
1542年　新潟県の佐渡銀山や兵庫県の生野銀山で採掘が始まる
石見銀山の昆布山谷で洪水、1300人が流される
1543年　ポルトガル船が種子島漂着。鉄砲伝来
1545年　ボリビアのポトシ銀山が発見される
1549年　ザビエル、日本に到着。手紙に「銀の島」と書く
1556年　毛利元就、石見銀山を支配する
1558年　尼子晴久、銀山を奪回する
1559年　毛利元就、正親天皇に石見銀２千貫目を献上
1561年　毛利元就、温泉津を占領して温泉津湊を開く
1562年　毛利元就、再び石見銀山を支配する
1570年　毛利元就、温泉津の鵜丸城築城を命令する
1590年　豊臣秀吉が全国を統一する
**1600年　関ヶ原の戦いで徳川家康が勝利**
**石見銀山は幕府の直轄地となる**

1601年　大久保長安が初代奉行就任
1603年　安原伝兵衛が釜屋間歩を開発し、家康から辻が花染丁子文道服を授かる
**1639年　鎖国**
1672年　温泉津が西廻り航路の寄港地となる
1693年　柑子谷の開発が始まる

1731年　井戸平左衛門が大森代官となる
1732年　享保の大飢饉。井戸代官がサツマイモ栽培などで飢饉をしのぐ
1747年　温泉津町大火、家屋や蔵が90軒あまり焼失
1776年　**永久稼所（永久鉱山）の始まり**
1800年　寛政の大火。大森町の2/3が焼失
1868年　明治維新により、明治政府が成立
1869年　大森県がおかれる
1887年　藤田組による経営の開始
1895年　清水谷製錬所完成。一年半で稼動停止

1923年　石見銀山、休山
1943年　**島根県に大規模な水害。永久坑が完全に閉鎖される**
1957年　大森町文化財保存会の結成
1966年　大森観光開発協会の発足
1969年　石見銀山遺跡が国史跡に指定
　　大森小学校児童による石見銀山遺跡愛護少年団の結成
1976年　石見銀山資料館の開館
1987年　大森の町並み、重要伝統的建造物群保存地区に選定
1997年　島根県知事、石見銀山の世界遺産登録をめざすことを宣言

2004年　温泉津の町並み、重要伝統的建造物群保存地区に選定
2005年　石見銀山協働会議の設立
　　大田市・仁摩町・温泉津町が合併。現在の大田市となる
2007年　**「石見銀山遺跡とその文化的景観」、世界遺産となる**
2010年　NPO法人石見銀山協働会議が石見銀山基金の運用を開始
2014年　「大田市人権尊重のまちづくり条例」制定

空から見た仙ノ山

【監修】
大田市教育委員会

【執筆指導】
大田市立鳥井小学校　多田房明
島根県立三瓶自然館　中村唯史
島根県立三瓶自然館　井上雅仁

【執筆・編集】
中田眞治
菅本至洋
和田美智子
野村啓介
森山敏広
永瀬輝樹
尾川章子
幸田卓三
下隅義久

【写真・資料出典・協力】
島根県教育庁世界遺産室
出雲市、富岡市、姫路市、広島市、富士市、堺市、福岡県文化振興課、長崎県世界遺産課
小笠原諸島森林生態系保全センター、国立西洋美術館、公益財団法人 白神山地ビジターセンター
熊野本宮観光協会、一般財団法人 沖縄美ら島財団 首里城公園管理センター
一般財団法人 平泉観光協会、日光山輪王寺、長福寺（大田市波根町）
円光寺（大田市久手町）、上野治子、井上雅仁、多田房明、多田英一
仲野義文、中村俊郎、松浦良彦、神戸市立博物館、島根県立古代出雲歴史博物館
NPO 法人緑と水の連絡会議、石見銀山ガイドの会、大田市宅野まちづくりセンター
石見銀山世界遺産センター、UNESCO World Heritage Center、The Library of Congress
The John Cater Brawn Library

石見銀山学習副読本
石見銀山ことはじめ
わたしたちの石見銀山

【発　　行】大田市教育委員会
【第1刷発行】平成28年3月
【第2刷発行】平成29年3月
【第3刷発行】平成31年3月
【第4刷発行】令和 3 年4月
【改　　訂】令和 6 年4月
【印 刷 製 本】急行印刷

名前